

令和5年度

# 教 育 要 項

こ ども 科

学校法人 東洋学園  
宮崎医療管理専門学校

## 目 次

序 文	1	第1・2学年	
授業科目及び単位数	2	保育技術演習	43
時間割表	4	こどもの指導法「音楽表現」	45
<b>第1学年</b>		保育者実践	47
憲 法	5	教育実習事前事後指導	49
英 語	6	全学連携演習1・2	50
英会話	7	<b>第2学年</b>	
体育理論・体育技術	8	情報機器演習	51
保育原理	10	社会福祉	52
教育原理	11	こどもの理解と援助	53
こども家庭福祉	12	こどもの保健	54
こども家庭支援論	13	こどもの食と栄養	55
社会的養護Ⅰ	14	こどもの指導法「造形表現」	57
保育者論	15	こどもの指導法「言語表現」	58
保育の心理学	16	乳児保育Ⅱ	60
こども家庭支援の心理学	17	こどもの健康と安全	61
保育の計画と評価	18	社会的養護Ⅱ	62
保育内容総論	19	子育て支援	63
こどもの指導法「健康」	20	保育実習Ⅰb	64
こどもの指導法「人間関係」	22	保育・教職実践演習	65
こどもの指導法「環境」	23	特別支援教育	66
こどもの指導法「言葉」	24	健康論	67
こどもの指導法「リズム表現」	26	環境論	68
こどもと造形	27	身体表現	69
表現とこどもの運動	29	保育総合表現	70
乳児保育Ⅰ	31	幼児安全法	71
障害児保育	32	保育実習指導Ⅱ又はⅢ	72
保育実習指導Ⅰ	33	保育実習Ⅱ	73
保育実習Ⅰa	35	保育実習Ⅲ	75
教育心理学	36	教育実習	76
言葉とこどもの文化	37		
人間関係論	38		
音楽表現	39		
造形表現	41		
教育方法論	42		

## 序 文

現代の社会において、人々の抱える様々な問題に対し、誰もが安心して暮らしていける仕組みづくりが求められています。特に、人々が自立した日常生活を営むことができるための適切な医療・福祉サービスの提供、また医療・福祉・保健の有機的な連携と地域福祉の更なる推進が今後ますます求められてまいります。また、それらの中でそれぞれの専門職が知識や技術を活用しつつ、多職種と連携し人々の生活を支えていくことが重要となります。

本校では、各学科において、高度な知識や技術の習得と情操豊かな人間性の確立をふまえた専門職の養成を行っております。特に、患者さんや利用者の方々の立場にたったサービスが提供できるマネジメント力を身につけるため、医療情報管理科では情報関連の複数の科目を連携させたデータサイエンス、介護福祉科ではヘルスアセスメントに大切なバイタルサインの学習、こども科では卒業と同時に幼稚園教諭資格が取得でき、さらに短期大学士（幼児教育学）の称号が得られる特色あるカリキュラムを設定しています。

この教育要項は、本校で学ぶ各学科の教科目について「学習目的・目標・内容」等の指針が示されています。これらは皆さんが計画的かつ主体的に学んでいくための重要な情報で学習意欲の向上に役立つものです。学習内容の理解をより深めるために、授業前の学習準備を含め科目間の関連をよく把握し、この教育要項を十分に活用することを希望します。

昨今、様々な職種で人材不足が叫ばれている中、皆さんは将来、医療機関や社会福祉関係施設、幼児教育施設、その他関連した職場で、マネジメントリーダーとしての活躍が期待されております。それぞれの職種に必要とされる専門的な知識や技術を習得し、強い精神力と行動力の発揮できる人材を目指して下さい。そして、本校の建学の精神「よき医療・福祉従事者であるとともに情操豊かな人格者であれ」という人間性の確立を目指し勉学に励むことを期待します。

なお、各教科に関連する専門図書を多数用意しておりますので、学習内容を補強するためにも、図書室の有効活用を奨励します。

令和5年4月1日

学 校 長 川野竜太郎

【こども科】

授業科目		単位数	時間数	授業形態			学年		
				講義	演習	実習	1年	2年	
教 養 科 目	憲 法	2	10 単 位 以 上 履 修	30	○			○	
	情 報 機 器 演 習	2		30		○			○
	英 語	1		30		○		○	
	英 会 話	(1)		(30)		(○)		(○)	
	体 育 理 論	1		15	○			○	
	体 育 技 術	1		30			○	○	
	保 育 技 術 演 習	2		60		○		○	○
保育の本質・目的に 関する科目	保 育 原 理	2	30	○			○		
	教 育 原 理	2	30	○			○		
	こ ども 家 庭 福 祉	2	30	○			○		
	社 会 福 祉	2	30	○				○	
	こ ども 家 庭 支 援 論	2	30	○			○		
	社 会 的 養 護 I	2	30	○			○		
	保 育 者 論	2	30	○			○		
保育の対象の理解に 関する科目	保 育 の 心 理 学	2	30	○			○		
	こ ども 家 庭 支 援 の 心 理 学	2	30	○			○		
	こ ども の 理 解 と 援 助	1	30		○			○	
	こ ども の 保 健	2	30	○				○	
	こ ども の 食 と 栄 養	2	60		○			○	
保育の内容・方法に 関する科目	保 育 の 計 画 と 評 価	2	30	○			○		
	保 育 内 容 総 論	1	30		○		○		
	こ ども の 指 導 法 「健 康」	1	30		○		○		
	こ ども の 指 導 法 「人 間 関 係」	1	30		○		○		
	こ ども の 指 導 法 「環 境」	1	30		○		○		
	こ ども の 指 導 法 「言 葉」	1	30		○		○		
	こ ども の 指 導 法 「リ ズ ム 表 現」	1	30		○		○		
	こ ども の 指 導 法 「造 形 表 現」	1	30		○			○	
	こ ども の 指 導 法 「音 楽 表 現」	2	60		○		○	○	
	こ ども の 指 導 法 「言 語 表 現」	1	30		○			○	
	こ ども と 造 形	1	30		○		○		
	表 現 と こ ども の 運 動	1	30		○		○		
	乳 児 保 育 I	2	30	○			○		
	乳 児 保 育 II	1	30		○			○	
	こ ども の 健 康 と 安 全	1	30		○			○	
	障 害 児 保 育	2	30		○		○		
	社 会 的 養 護 II	1	30		○			○	
子 育 て 支 援	1	30		○			○		

授業科目		単位数	時間数	授業形態			学年	
				講義	演習	実習	1年	2年
保育実習	保育実習指導Ⅰ	2	60		○		○	
	保育実習Ⅰa	2	90			○	○	
	保育実習Ⅰb	2	90			○		○
総合演習	保育・教職実践演習	2	30		○			○
保育の対象の理解に関する科目	教育心理学	2	30	○			○	
	言葉とこどもの文化	1	15	○			○	
	特別支援教育	1	15	○				○
保育の内容・方法に関する科目	人間関係論	1	15	○			○	
	健康論	1	15	○				○
	環境論	1	15	○				○
	身体表現	1	30		○			○
	音楽表現	2	60		○		○	
	造形表現	1	30		○		○	
	保育総合表現	2	60		○			○
	保育者実践	2	60		○		○	○
	幼児安全法	1	30		○			○
保育実習	保育実習指導Ⅱ又はⅢ	1	30		○			○
	保育実習Ⅱ	2	90			○		○
	保育実習Ⅲ					○		○
独自科目	全学連携演習1	1	15		○		○	
	全学連携演習2	1	15		○			○
	★教育方法論	1	15	○			○	
	★教育実習事前事後指導	1	15		○		○	○
	★教育実習	4	140			○		○
卒業に必要な時間数及び単位数合計		83	1950					
幼稚園教諭Ⅱ種免許取得に必要な時間数及び単位数合計		6	170					
設置合計 ※（ ）を含む		90	2150					

注…★印は、幼稚園教諭Ⅱ種免許取得のみに必要な科目

## 令和5年度 こども科 時間割

### 1年次 前期

		月	火	水	木	金	土
1	09:10 10:40	こどもの指導法「人間関係」	教育心理学	教育原理	こどもの指導法「言葉」	A音楽表現 Bガイダンス	
2	10:50 12:20	表現とこどもの運動	障害児保育	こどもと造形	保育の心理学	Aガイダンス B音楽表現	
3	13:10 14:40	教育方法論	こどもの指導法「リズム表現」	保育の計画と評価	こども家庭福祉	こどもの指導法「環境」	
4	14:50 16:20	ガイダンス	こどもの指導法「健康」	保育実習指導 I	全学連携演習 1	保育内容総論	

### 1年次 後期

		月	火	水	木	金	土
1	09:10 10:40	憲法	ガイダンス	言葉とこどもの文化	体育理論	A音楽表現 Bガイダンス	
2	10:50 12:20	造形表現	乳児保育 I	こども家庭支援の心理学	保育技術演習	Aガイダンス B音楽表現	
3	13:10 14:40	こども家庭支援論	保育実習指導 I	英語	保育者論	人間関係論	
4	14:50 16:20	こどもの指導法「音楽表現」	保育者実践	保育原理		社会的養護 I	

### 2年次 前期

		月	火	水	木	金	土
1	09:10 10:40	保育・教職実践演習	子育て支援	保育実習指導 II・III	環境論	こどもの理解と援助	
2	10:50 12:10	健康論	乳児保育 II	こどもの食と栄養	特別支援教育/こどもの指導法「造形表現」	こどもの理解と援助	
3	13:10 14:40	こどもの指導法「音楽表現」	社会福祉	こどもの指導法「言語表現」	保育技術演習	子育て支援	
4	14:50 16:20	こどもの指導法「音楽表現」	保育者実践	情報機器演習	全学連携演習 2	ガイダンス	

### 2年次 後期

		月	火	水	木	金	土
1	09:10 10:40	ガイダンス	こどもの保健	身体表現/こども家庭支援論	社会的養護 II	保育技術演習	
2	10:50 12:10	こどもの保健	こどもの保健	こどもの食と栄養	こどもの健康と安全	こどもの食と栄養	
3	13:10 14:40	保育総合表現	身体表現	こどもの食と栄養	こどもの健康と安全	こどもの食と栄養	
4	14:50 16:20	社会的養護 II	身体表現	こどもの健康と安全			

幼児安全法 集中講座 3日間

科目名	憲法 (Japanese Constitution)						
学年	1	時期	後期	分野	教養	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	湯田 拓史 (非常勤講師)
授業概要	<p>日本国憲法の全体像を概観しながら、国民の人権保障について及び日本における統治機構（国会・内閣・裁判所）について理解を深めていく。その上で、日本国憲法が我々の生活にどのような関わっているのかを理解する。</p> <p>そして、児童福祉や幼児教育に携わるものとして、この科目で学び得たものを実践及び自らの社会生活の中で活用できるようにしていく。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本国憲法の全体像を理解し、説明できる。</li> <li>2. 日本国憲法の規定を確認し、人権保障に関する様々な解釈を理解し、説明できる。</li> <li>3. 日本国憲法における三権（司法権・立法権・行政権）について理解し、説明できる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	憲法と立憲主義・日本憲法史					
	2	日本国憲法の構成と基本原理					
	3	基本的人権の保障・包括的基本権と法の下での平等					
	4	精神的自由権					
	5	身体的自由権					
	6	経済的自由権					
	7	社会権					
	8	参政権と国務請求権					
	9	統治機構の基本原理					
	10	国会と立法権					
	11	内閣と行政権					
	12	裁判所と司法権					
	13	財政					
	14	地方自治					
	15	憲法改正					
	科目修得試験						
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <p>・出席状況 ・科目修得試験</p>						
テキスト 参考文献	<p>テキスト ・配本テキスト「憲法」（豊岡短期大学） 参考文献等 ・必要に応じて指示する。</p>						
備考	<p>・「保育小六法」を持ってくること。</p>						

科目名	英語 (English)						
学年	1	時期	後期	分野	教養	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	小川ジョイス (非常勤講師)
授業概要	今日では、幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、保育現場で英語を使う機会も増えている。本科目では、英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場で必要な英語表現を運用できる力を身に付けることを目標とする。						
到達目標	1. 平素な英語で書かれた物語および子どもの発達に関する英文の内容を理解することができる。 2. 英語表現の基礎となる文法・構文を用いて英文をつくることができるとともに子どもの発達に関する英文の内容を理解することができる。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	英語の文法 (動詞、形容詞・副詞)					
	2	英語の文法 (比較、代名詞、疑問詞)					
	3	英語の文法 (進行形、完了形、受動態)					
	4	英語の基礎構文 (5文型)					
	5	英語の基礎構文 (修飾語)					
	6	英語の基礎構文 (接続詞、仮定法)					
	7	入園準備					
	8	登園・降園					
	9	室内遊び					
	10	外遊び					
	11	健康・病気・けが					
	12	運動・お散歩					
	13	食事					
	14	工作・お絵かき					
	15	おたより・行事					
	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・レポート課題の評価基準により判定し評価する。 (レポート評価はルーブリック評価を用いる) ・科目修得試験の結果により判定し評価する。						
テキスト 参考文献	テキスト ・配本テキスト「英語コミュニケーション」(豊岡短期大学) 参考文献等 ・「新・保育の英語」(三修社)						
備考	・授業は事前にテキストからポイントを把握し、質問事項等をまとめておくこと。 ・課題やレポートは提出期限を厳守すること。						



科目名	英会話 (English Communication)						
学年	1	時期	前期	分野		必修選択	開講せず
単位数	1	時間数	15	授業形態	演習	担当講師	Ogawa, Joyce A.
授業概要	To develop their confidence to communicate and listen to the native speakers.						
到達目標	a. To learn how to different situations. b. To be more creative and active in communicating with others.						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	Introduction					
	2	Likes and Dislikes/Hobbies					
	3	Possession					
	4	Ability					
	5	Exclamation					
	6	Requests					
	7	Proposal					
	8	Invitation					
	9	Permission					
	10	Prohibition					
	11	Reason					
	12	Thanks					
	13	Apology					
	14	General Review1					
	15	General Review2					
	FINAL EXAMINATION						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 # Grammar Focus # Fluency Exercise # Oral or Written Reports # Motivation(conversation Exercise)						
テキスト 参考文献	1. Steps To English Conversation by Richard Linde 2. How To Teach English To Japanese Students by Bob Godin						
備考	a. Be Considerate and participate in the class and other activities. b. Try to express yourself and transmit your ideas. c. Give yourself a chance to communicate with foreigners around you.						

科目名	体育理論・体育技術 (Physical Education and Theory)						
学年	1	時期	[理論] 後期 [実技] 前期	分野	教養	必修選択	必修
単位数	[理論] 1 [実技] 1	時間数	[理論] 15 [実技] 30	授業形態	[理論] 講義 [実技] 実技	担当講師	野邊 壮平 (非常勤講師)
授業概要	現代社会の中で心身ともに健康で過ごしていくためには、各個人が健康づくりに関する科学的な基礎知識やその実践方法を身につけることが何より大切である。自己の身体に関心を持ち、積極的に健康・体力づくりに務める習慣や態度を身につける。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の概念を理解しそれらを阻害する要因や関わりなどが説明できる。</li> <li>2. 人体の構造や機能を理解し運動がどのように行われるのか説明できる。</li> <li>3. 体力の概念を理解し体力づくりの原則やトレーニングの方法などが説明できる。</li> <li>4. スポーツと事故について学び、安全管理や救急処置について学ぶ。</li> <li>5. 体育実技を通して各種の運動技能を高めると共に自己の体力向上に努める。</li> <li>6. 各種のスポーツを仲間と共に技術面の向上を図り楽しむことができる。</li> <li>7. 指導者としてのスポーツの指導方法や競技運営を学ぶ。</li> <li>8. 自己のライフスタイルを省みながら自己の健康や体力づくりを学ぶ。</li> </ol>						
授業計画	回数	授業内容					
		体育理論					
	1	オリエンテーション	現代生活と健康	健康を阻害する因子			
	2	運動の基礎理論	運動不足病	運動の効果			
	3	運動生理学①	骨格と筋肉				
	4	運動生理学②	運動と呼吸	運動と神経			
	5	体力とトレーニング	体力について	トレーニングの原則			
	6	運動処方	トレーニングの実際				
	7	救命救急	スポーツに関する事故について				
	8	生活と健康	自己のライフスタイルから健康課題を探る				
		科目修得試験					
		体育実技					
	1	オリエンテーション	ストレッチ				
	2	ウォーキング理論					
	3	ウォーキング実践					
	4	バレーボール	基本練習	ミニゲーム			
	5	バレーボール	応用練習	ミニゲーム			
	6	バレーボール	ゲーム・審判				
	7	バレーボール	ゲーム・審判				
	8	バトミントン	基本練習				
9	バトミントン	基本練習	ミニゲーム				
10	バトミントン	シングルスゲーム					
11	バトミントン	ダブルスのゲーム					
12	ソフトボール	基本練習	ゲーム				
13	バスケットボール	基本練習					

	14	バスケットボール ゲーム
	15	ニュースポーツなど
		科目修得試験
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育理論は科目修得試験より評価する。</li> <li>・ 体育実技は各スポーツの技術点や受講態度などを総合的に評価する。</li> </ul>	
テキスト 参考文献	<p>テキスト ・ 配本テキスト「健康科学」(豊岡短期大学)</p>	
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分自身の体力や健康を省みながら講義に臨み積極的に取り組んでいくこと。</li> <li>・ 理論ではノートをしっかり取り資料のも添付し整理に努めること。</li> <li>・ レポートや課題などの提出物は提出期限をしっかり守ること。</li> <li>・ 実技では安全に楽しく運動ができるように服装運動靴を整えること。</li> <li>・ 準備や後片付けなどは互いに協力して積極的に行うこと。</li> </ul>	

科目名	保育原理 (Principle of Early Childhood Care)						
学年	1	時期	後期	分野	保育の本質・目的	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	岩切 美知子(専任教員)
授業概要	子どもをとりまく環境を踏まえながら、保育の意義及び目的について理解を深める。保育の思想や歴史、制度、内容や方法などについて学習し、のぞましい保育を考えていく。今日の保育の現状と課題について考察し、保育者としての資質の在り方に目を向け、保育におけるさまざまな課題に関する認識を深めていく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の意義とその果たす役割について理解し説明できる。</li> <li>2. 保育の目標・方法・環境・計画と評価について、保育所保育指針を通して理解を深める。</li> <li>3. 保育の内容と方法の基本について理解し、保育の場で活かすことができる。</li> <li>4. 保育の思想と歴史的変遷について学び、今日の保育へと至った道筋を知る。</li> <li>5. 世界と日本の保育の現状と課題について学び、保育に必要な共通性と専門性について考察する。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	保育の理念と概要					
	2	保育の社会的役割と責任					
	3	子ども・子育て支援制度と保育に関わる関係法令					
	4	保育の実施体系 保育施設の設置及び運営の基準					
	5	保育所保育指針に基づく保育 改訂保育指針の内容					
	6	保育の目標と方法 生活と遊びを通じた総合的な保育					
	7	乳児の保育					
	8	1歳以上3歳未満児の保育					
	9	3歳以上の保育					
	10	子どもの理解に基づく保育の過程 ①理論編					
	11	子どもの理解に基づく保育の過程 ②実践編					
	12	諸外国の保育の思想と歴史					
	13	日本の保育の思想と歴史					
	14	諸外国の保育の現状と課題					
	15	日本の保育の現状と課題					
	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 科目習得試験(70%)・演習課題等(30%)						
テキスト 参考文献	新基本保育シリーズ1 保育原理 中央法規 保育所保育指針解説 フレーベル館 幼稚園教育要領解説 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館 保育福祉小六法2023 (株)みらい出版						
備考	配付資料は、科目専用のファイルを準備し日付順に綴じて管理すること。						

科目名	教育原理 (Principles of Education)						
学年	1	時期	前期	分野	保育の本質・目的に関する科目	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	宮下 清子 (専任教員)
授業概要	1. 教育思想について学び、教育の意義、目的について理解する。 2. 教育制度や教育実践の取り組みについて理解する。 3. 教育の現状と地域における課題について考察し、保育者の役割について理解する。						
到達目標	1. 教育のあり方について説明できる。 2. 教育思想を理解し、現在の教育の理念や方法と関連付けることができる。 3. 自己の教育体験を振り返りながら、保育者としての関わりについて考察できる。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 保育における教育原理					
	2	教育の意義と目的					
	3	諸外国の教育思想と歴史①					
	4	諸外国の教育思想と歴史②					
	5	諸外国の教育思想と歴史③					
	6	諸外国の教育思想と歴史④					
	7	日本の教育思想と歴史					
	8	日本の近代教育					
	9	子どもの権利条約					
	10	教育制度：保育所・幼稚園・認定こども園					
	11	日本の学校制度					
	12	教育における今日的課題①					
	13	教育における今日的課題②					
	14	教育と児童福祉：人間形成と家庭・地域・社会との関連性					
	15	現代の教育課題：学校外との連携					
	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 60% ・小テスト 20% ・演習状況 10% ・課題提出 10%						
テキスト 参考文献	テキスト：教育原理（配本テキスト） 新・基本保育シリーズ② 教育原理 中央法規出版 その他：講師配布資料						
備考	配布資料をしっかりと整理・保管すること。						

科目名	こども家庭福祉 (Child and family welfare)						
学年	1	時期	後期	分野	保育の本質・目的	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	新名 隆宏 (専任教員)
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における子ども家庭福祉を取り巻く現状について学習する。</li> <li>2. 少子化の進行を踏まえ、現代の子ども家庭福祉に関する法律、制度、サービスについて理解を深める。</li> <li>3. 今日における子どもやその家庭が抱える諸問題について理解し、将来専門職として問題解決に取り組むために必要な知識や方法を習得する。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の子ども家庭福祉の状況や課題について理解し、説明できる。</li> <li>2. 子ども家庭福祉に関する法律、制度や実施体制、について理解し、説明できる。</li> <li>3. 保育、幼児教育の専門職として、子どもや家庭の抱える諸問題に対し、どう対応し、支援するべきか自分の考えを述べることができる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション・子ども家庭福祉の概念					
	2	子ども家庭福祉の歴史的展開					
	3	子どもの人権擁護と児童の権利に関する条約					
	4	児童福祉六法についての理解					
	5	児童福祉施設と専門職					
	6	少子化と地域子育て支援					
	7	母子保健と子どもの健全育成					
	8	多様な保育ニーズの理解					
	9	子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止					
	10	さまざまな家庭支援への対応					
	11	社会的養護とは					
	12	障害のある子どもの福祉					
	13	少年非行等への対応の歴史と現状					
	14	子ども・子育て支援制度					
	15	子ども家庭福祉の今後の展望					
	科目修得試験						
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目修得試験 70%</li> <li>・レポート課題提出状況 20%</li> <li>・配布資料等記入状況 10%</li> </ul>						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新基本保育シリーズ 子ども家庭福祉 (中央法規出版)</li> <li>・保育福祉小六法 2023 (みらい)</li> </ul>						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考文献については、随時提示する。</li> </ul>						
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ毎時間講師作成資料を配布する。自己管理を行うこと。</li> </ul>						

科目名	こども家庭支援論 (Child and Family support theory)						
学年	1	時期	後期	分野	保育の本質・目的	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	新名 隆宏 (専任教員)
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こども家庭支援の意義、目的について学習する。</li> <li>2. 保育の専門性を活かしたこども家庭支援の基本について学習する。</li> <li>3. 子育て家庭の支援体制について学習する。</li> <li>4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と課題について学習する。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 支援の対象となる家庭とは何かをふまえ、支援の意義と機能について説明できる。</li> <li>2. 現代の子育て家庭を取り巻く社会的状況を踏まえ、支援の必要性について説明できる。</li> <li>3. 子育て家庭を支える社会資源や、子育て家庭を支援するシステム、支援体制について説明できる。</li> <li>4. それぞれの家庭のニーズに応じた支援をするために必要な保育士の基本的態度について説明し実践できる。</li> <li>5. 4を踏まえて適切な「相談・支援」を行うことは「子育て支援」のために欠かせないものであることを説明し実践できる。</li> <li>6. 以上を踏まえて、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援対策を提供するため、種々の支援活動及び関係機関との連携の必要性について説明し実践に活用できる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	こども家庭支援の意義と必要性					
	2	こども家庭支援の目的と機能					
	3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進					
	4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源					
	5	保育の専門性を活かしたこども家庭支援とその意義					
	6	子どもの育ちの喜びの共有					
	7	保護者および地域が有する子育てを自ら実践力に資する支援					
	8	保育士に求められる基本的態度					
	9	家庭の状況に応じた支援					
	10	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力					
	11	こども家庭支援の内容と対象					
	12	保育所等を利用する子どもの家庭への支援					
	13	地域の子育て家庭への支援					
	14	要保護児童およびその家庭に対する支援					
	15	子育て支援に関する課題と展望					
	科目修得試験						
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <p>・科目修得試験70% ・レポート課題20% ・受講状況(演習含む)10%</p>						
テキスト 参考文献	<p>テキスト：新・基本保育シリーズ⑤「こども家庭支援論」(中央法規出版)</p> <p>参考文献：保育福祉小六法2023 (みらい)</p> <p>その他：講師配布資料</p>						
備考	<p>・子育て支援に関して、ニュース等から関心を持ち、意欲をもって自主的に学習する姿勢で臨んでほしい。</p>						

科目名	社会的養護Ⅰ (Social nursing)						
学年	1	時期	後期	分野	保育の本質・目的に関する科目	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	宮下 清子(専任教員)
授業概要	さまざまな子どもを取り巻く現代の生活環境を理解し、福祉の現場における保育者として、児童福祉施設の役割について理解する。また、社会的養護に関わる専門職間のチームワークの必要性と、家族や地域社会、専門機関との連携についても理解し、保育者としての関わりについて学んでいく。						
到達目標	4. 児童福祉施設における子どもの生活支援について理解できる。 5. 社会的養護の現場における専門職との連携について理解し、保育者の関わりについて考察できる。 3. 事例を通して人々の生活の実際を理解し、福祉の現場における保育者として求められる関わりについて考えることができる。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 子どもの生活：現代の状況					
	2	社会的養護の意義、歴史的変遷					
	3	社会的養護の専門職①					
	4	社会的養護の専門職②					
	5	子ども的人権					
	6	社会的養護の仕組み、支援のあり方					
	7	児童相談所の役割、機能、相談内容					
	8	家庭養護：里親					
	9	施設養護①：児童養護施設					
	10	施設養護②：乳児院、母子生活支援施設、児童心理治療施設					
	11	施設養護③：児童自立支援施設、自立援助ホーム					
	12	施設養護④：障害児入所施設					
	13	家庭養育：児童発達支援センター					
	14	社会的養護に関わる専門職					
	15	社会的養護の現状と課題：家庭・専門機関・地域との連携					
	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 60% ・演習状況 30% ・課題提出 10%						
テキスト 参考文献	使用テキスト：新・基本保育シリーズ⑥ 社会的養護Ⅰ 中央法規出版 参考文献：保育福祉小六法2023 みらい その他：講師配布資料						
備考	配布資料をしっかりと整理・保管すること。						



科目名	保育者論 (Theory of Teacher)						
学年	1	時期	後期	分野	保育の本質・目的	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	黒川 由紀 (専任教員)
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者の役割と倫理について理解する。</li> <li>2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。</li> <li>3. 保育士の専門性について考察し、理解する。</li> <li>4. 保育者の連携・協働について理解する。</li> <li>5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者の役割や専門職としての倫理を理解し、保育の本質を自覚する。</li> <li>2. 子育て社会の背景・子育て環境を理解し、保護者支援の必要性を説明できる</li> <li>3. 保育者の専門性、技術を常に高める努力を行い、豊かな資質向上の方法を考える。</li> <li>4. 正しい子ども観、保育観、発達観をもち、自分なりのキャリアの見通しを持つ。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	保育者の役割・職務内容	保育所保育士の専門性と職務内容				
	2	養護及び教育の一体的展開	子どもの日常生活における保育士との関わりと援助				
	3	保育者の資格・能力	子どもの育ちを支える専門職の資質と能力				
	4	教職(保育)観の変遷と保育者の役割					
	5	家庭との連携と保護者に対する支援①	保護者への支援の必要性				
	6	家庭との連携と保護者に対する支援②	家庭との連携				
	7	環境を通して行う保育とは					
	8	計画に基づく保育の実践と省察					
	9	保育における職員間の連携・協働					
	10	専門職間及び専門機関との連携・協働					
	11	地域社会との連携・協働					
	12	関係機関との連携・協働					
	13	資質向上に関する組織的取り組み	省察的実践者としての保育士				
	14	保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義	保育士のキャリアパスと専門的成長				
	15	保育におけるリーダーシップ	保育所保育指針における職員の資質向上の基本				
		科目修得試験					
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況並びに受講態度</li> <li>・レポート提出及び科目修得試験の成績</li> </ul>						
テキスト 参考文献	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新基本保育シリーズ 「保育者論」 (中央法規)</li> <li>・保育所保育指針解説 (フレーベル館)</li> <li>・幼稚園教育要領解説 (フレーベル館)</li> <li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (フレーベル館)</li> <li>・全国保育士会倫理綱領ガイドブック (全国社会福祉協議会)</li> <li>・配本テキスト「教職論」 (豊岡短期大学)</li> </ul>					
	参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師作成資料配布</li> </ul>					
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ事例を多く紹介し具体的考察が出来るようにするが、常に主体的に考えて疑問点については積極的に質問し、問題解決に努めてほしい。</li> <li>・配布された資料やプリントは整理し、自己管理をしっかりとすること。</li> <li>・レポートなどの課題に意欲的に取り組み、提出期限は厳守すること。</li> </ul>						

科目名	保育の心理学 (psychology of Children)						
学年	1	時期	前期	分野	保育の対象の理解	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	西村 美香 (非常勤講師)
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>生涯発達全体を見通しながら、発達のそれぞれの時期の心理的特性を理解していく。</li> <li>保育を実践していくために、子どもの時期とはどのような時期なのかを学んでいく。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>保育実践に関わる心理学の知識を習得する。</li> <li>子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。</li> <li>子どもが人との相互的関わりを通して発達していくことを具体的に理解する。</li> <li>生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考察する。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 保育の心理学とは					
	2	発達を捉える視点① 子どもの発達を理解することの意義					
	3	発達を捉える視点② 子どもの発達と環境					
	4	発達を捉える視点③ 発達理論と子ども観・保育観					
	5	子どもの発達過程① 自我					
	6	子どもの発達過程② 他者					
	7	子どもの発達過程③ 他者とのかかわり					
	8	子どもの発達過程④ 身体的機能と運動機能の発達					
	9	子どもの発達過程⑤ 認知の発達					
	10	子どもの発達過程⑥ 言語の発達					
	11	子どもの学びと保育① 乳幼児期の学びに関わる理論					
	12	子どもの学びと保育② 社会情動的学び					
	13	子どもの学びと保育③ 認知的学び					
	14	子どもの学びと保育④ 乳幼児期の学びを支える保育					
		まとめ					
	科目修得試験						
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>科目修得試験 7割</li> <li>レポート課題提出状況 3割</li> </ul>						
テキスト 参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>新基本保育シリーズ 保育の心理学 (中央法規出版)</li> <li>幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読む (全国社会福祉協議会)</li> <li>参考文献については、随時提示する。</li> </ul>						
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で興味・関心をもったことについては、自己の学習過程においても追及していくこと。</li> <li>授業中に疑問を持ったこと、持った課題についてはできるだけ表現して伝えること。</li> </ul>						

科目名	こども家庭支援の心理学 (Psychology of child family support)						
学年	1	時期	後期	分野	保育の対象の理解	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	鬼束 咲子 (非常勤講師)
授業概要	1. 保育に関わる発達理論等の心理学的知見をもとに、ひとの生涯発達について理解を深める。 2. 家族や家庭の理解 (意義、機能、課題) を通して、子どもを捉える視点を習得する。						
到達目標	1. ひとの生涯発達を理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代社会の状況と課題を理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	乳児期の発達					
	2	幼児期の発達					
	3	学童期の発達					
	4	青年期の発達					
	5	成人期・中年期の発達					
	6	高齢期の発達					
	7	家族・家庭の意義と機能					
	8	家族関係・親子関係の理解					
	9	子育て経験と親としての育ち					
	10	子育てを取り巻く社会的状況					
	11	ライフコースと仕事・子育て					
	12	多様な家庭とその理解					
	13	特別な配慮を必要とする家庭					
	14	子どもの生活・生育環境とその影響					
	15	子どものこころの健康に関わる問題					
	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 7割 ・レポート課題提出状況 3割						
テキスト 参考文献	・新基本保育シリーズ 子どもの家庭支援の心理学 (中央法規出版) ・参考文献については、随時提示する。						
備考	・授業の中で興味・関心をもったことについては、自己の学習過程においても追及していくこと。 ・授業中に疑問を持ったこと、持った課題については問題解決に向けて行動すること。						

科目名	保育の計画と評価 (Planning of nurture and evaluation)						
学年	1	時期	前期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	岩切 美知子(専任教員)
授業概要	<p>幼児、子どもを育てる上で、大切なこと(目標)、どのような手法、手立て(方針)、どのような内容で、どんな時期に、どんな環境で、等々を学ぶ。幼児教育・保育における教育課程・全体的な計画の意義と役割を明らかにする。そのために保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。教育課程・全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え理解する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の計画と評価について説明できる。</li> <li>2. 全体的な計画と指導計画作成のポイントと留意点を説明できる。</li> <li>3. 全体的な計画と指導計画を作成できる</li> <li>4. 計画、実践、省察、評価、改善の過程について記述できる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	保育における計画の意義					
	2	子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の循環による保育の質の向上					
	3	日本におけるカリキュラムの基礎理論					
	4	子ども理解に基づく保育の循環					
	5	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ・改定(訂)内容					
	6	幼稚園の教育課程の編成の基本原則と方法					
	7	保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原則と方法					
	8	幼稚園・保育所・認定こども園の指導計画の作成					
	9	保育の評価					
	10	指導計画の書き方					
	11	0歳児の指導計画					
	12	1歳以上3歳未満児の指導計画					
	13	3・4歳児の指導計画					
	14	5歳児の指導計画					
	15	小学校との接続					
	科目修得試験						
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目修得試験(50%) ・演習、レポート課題(10%) 小テスト(30%)</li> <li>・配布資料(記入・整理)及び受講状況(10%)</li> </ul>						
テキスト 参考文献	<p>新基本保育シリーズ⑬ 教育・保育カリキュラム論 中央法規  幼稚園教育要領解説 フレーベル館  保育所保育指針解説 フレーベル館  幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館  保育福祉小六法2023 みらい</p>						
備考	<p>配付資料は、日付順に綴じて管理すること。</p>						

科目名	保育内容総論 (Study of contents for care and education)						
学年	1	時期	前期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	岩切 美知子(専任教員)
授業概要	保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体的構造について理解し、各領域の保育内容を総合的に捉える視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児の終わりまでに育てほしい姿」と「保育内容」の関連を理解する。</li> <li>2. 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解ができる。</li> <li>3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する</li> <li>4. 保育の多様な展開について具体的に理解する</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	保育の全体構造と保育内容					
	2	保育内容の歴史的変遷と社会的背景					
	3	養護及び教育が一体的に展開する保育					
	4	子どもの発達や生活に即した保育内容					
	5	子どもの主体的を尊重する保育					
	6	環境を通して行う保育					
	7	保育における「領域」					
	8	生活や遊びによる総合的な保育					
	9	子どもの遊びと保育内容					
	10	個と集団の発達を踏まえた保育					
	11	家庭や地域等との連携を踏まえた保育					
	12	保育の評価と保育の記録 ①幼児理解に基づく評価					
	13	保育の評価と保育の記録 ②観察記録の意義と幼児理解					
	14	小学校教育との接続					
	15	多文化共生の保育					
	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 科目修得試験（50%） レポート、演習課題（10%） 小テスト（30%） 配布資料（記入、整理）及び受講状況（10%）						
テキスト 参考文献	保育内容総論（配本テキスト） 保育内容総論 中央法規 保育所保育指針解説 幼稚園教育要領解説 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館 保育福祉小六法2023 みらい 講師作成資料配布						
備考	配付資料は、ファイルを準備し日付順に綴じて管理すること。						

科目名	こどもの指導法「健康」 (Child's method of teaching Health)						
学年	1	時期	前期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	田代 佳代子 (非常勤講師)
授業概要	1. 領域「健康」のねらい及び内容について理解し、「健康」の視点から保育を展開していくための知識及び技能を習得する。 2. 幼児期の運動の重要性を理解し、発育・発達に関する基本的な知識や技能を学ぶ。 3. 乳幼児期の発達に即して、具体的な場面を想定して教育・保育を構想する方法を身につける。						
到達目標	1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園保育・教育要領の領域「健康」について理解し、位置づけやねらい・内容を知る。 2. 乳幼児の「健康」における基本的な発育段階や取り巻く現状・問題点などを理解する。 3. 子どもの遊びの意義を理解し、園生活に必要な保育者としての支援や援助の方法を考える。 4. 子どもの特性を踏まえた運動遊びの援助の仕方や留意・配慮すべき事項を、理解したり自分で考えたりすることができるようになる。 5. 子どもの発達課題に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境構成や教材・遊具等の活用・作成など、保育の実際について理解する。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 幼児教育の基本					
	2	幼児教育・保育における「健康」領域と幼児の健康 演習1：ワークシート (課題：自己紹介、「健康のイメージ」)					
	3	乳幼児期の生活リズムと基本的な生活習慣 幼児の生活スタイルの現状と問題点					
	4	幼児の生活習慣の自立 (睡眠・排泄・衛生・着脱など)					
	5	幼児の生活と食 (アレルギー・食育など)					
	6	幼児のあそびと健康① 園生活と運動遊び・伝承遊び					
	7	幼児のあそびと健康② さまざまな運動遊びの実践					
	8	子どもの健康と保育者の役割 (園で必要な保育計画やガイドライン)					
	9	乳幼児期の心身の発育・発達① 保育の意義と健康観 幼児期の形態的発育 幼児期の機能的発育					
	10	乳幼児期の心身の発育・発達② 発育・発達過程に応じた保育、保育課程編成の基本					
	11	子どものこころの健康 こころの発達とストレスのサイン 子どもの健康と虐待の現状					
	12	子どもの遊びの発達と健康 幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割 幼児の遊びを引き出す環境づくり					
	13	幼児の安全管理と安全教育 交通安全指導・避難訓練 ケガや病気などの体調異変に対する処置法 (対処法)					
	14	運動体験を広げる園行事 (プール遊び・運動会など)					
	15	健康と自然環境 (園外保育) 園外保育の活動内容 園外保育の留意点 演習2：ワークシート「遊びプログラムの作成」(グループワーク)					
	16	まとめ・科目修得試験					
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・出席状況並びに受講態度 10% ・課題、レポート、振り返りアンケート 20% ・科目修得試験 70%						

<p>テキスト 参考文献</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容「健康」 保育の内容・方法を知る （北大路書房）</li> <li>・「幼稚園教育要領解説」・「保育所保育指針解説」</li> <li>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」</li> </ul>
<p>備 考</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業はグループ学習や演習形式で行うので、積極的に学び合うこと。</li> <li>・ノートは内容の記録だけでなく配布資料なども添付し、参考文献などで内容をさらに深めしっかりまとめること。</li> </ul>

科目名	こどもの指導法「人間関係」(Child's method of teaching The human relations)						
学年	1	時期	前期	分野	保育の内容・方法に関する科目	必修選択	必修
単位数	1	時間数	15	授業形態	演習	担当講師	宮下 清子(専任教員) 野崎 秀正(非常勤講師)
授業概要	<p>3. 子どもが主体的に活動できるよう人間関係のあり方を理解し、保育者の役割を習得する。</p> <p>4. 子どもの発達を領域「人間関係」から捉え、具体的な保育内容を理解する。</p> <p>3. 子どもを取り巻く生活環境の中で、保育者として人的・物的環境について求められていることを理解する。</p>						
到達目標	<p>6. 領域「人間関係」について理解し、説明できる。</p> <p>7. 事例を通し、保育者の関わりを考察し、環境構成と援助方法について工夫できる。</p> <p>8. 子どもの人間関係作りを理解し、子どもと養育者、子どもと保育者、保護者と保育者、子ども同士や保育者間の連携について考えを述べるができる。</p>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	はじめに 子どもを取り巻く人的環境					
	2	領域「人間関係」が目指すもの					
	3	遊びと人間関係①：0・1・2歳児との関わりと保育					
	4	遊びと人間関係②：3歳児					
	5	遊びと人間関係③：4歳児					
	6	遊びと人間関係④：5歳児					
	7	遊びと人間関係⑤：気にかかる子や支援を必要とする子への援助					
	8	領域「人間関係」：ねらい、内容、保育者の役割					
	9	環境作りと評価：環境設定、指導案					
	10	子どもの人間関係の育ちと保育者の役割・援助①：子どもの自己理解と他者理解					
	11	子どもの人間関係の育ちと保育者の役割・援助②：個と集団の育ち					
	12	子どもの人間関係の育ちと保育者の役割・援助③：子どもの心理的側面					
	13	子どもの人間関係の育ちと保育者の役割・援助④：子供の自己発揮・自己抑制					
	14	子どもの人間関係の育ちと保育者の役割・援助⑤：子ども同士のつながり					
		地域との連携：小学校との交流					
	科目修得試験						
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <p>・科目修得試験 60% ・演習状況 30% ・課題提出 10%</p>						
テキスト 参考文献	<p>使用テキスト：体験する・調べる・考える 領域 人間関係</p> <p>参考文献：保育所保育指針解説(最新版)</p> <p>参考文献：幼稚園教育要領解説(最新版)</p> <p>参考文献：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)</p> <p>その他：講師配布資料</p>						<p>萌文書林</p> <p>フレーベル館</p> <p>フレーベル館</p> <p>フレーベル館</p>
備考	配布資料をしっかりと整理・保管すること。						



科目名	こどもの指導法「環境」 (Child's method of teaching The environment)						
学年	1	時期	前期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	菊田 恭子 (非常勤講師)
授業概要	保育内容「環境」の指導法では、子どもを取り巻く「環境」とは何か、その意味を理解する。また、具体的な保育の場面や子どもの姿を想定し、環境へのかかわり方や保護者の支援の在り方について考え、望ましい環境を構成する力を身に付けることを目標とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育内容「環境」のねらいと内容を理解する。</li> <li>2. 子どもを取り巻く様々な環境の理解と関心を持つ。</li> <li>3. 人的環境としての保育者の役割を考え、保育実践力をつける。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 幼児にふさわしい生活とは					
	2	保育の基本と領域「環境」 環境を通して行う保育とは 環境の構成と保育者の意図性					
	3	領域「環境」のねらいと内容 子どもの発達と環境 ～誕生から満3歳まで～					
	4	領域「環境」のねらいと内容 小学校における学びとのつながりについて理解する					
	5	領域「環境」の指導 「人的環境」「社会的事象」 保育者・友達・家族・地域の人々との関わりと子どもの成長について					
	6	領域「環境」の指導 「人的環境」 増える核家族・食卓の変化・少子化について					
	7	領域「環境」の指導 「物的環境」 身近な物的環境に興味、関心を示し、手に取り関わりが生まれるにはどうしたらよいか についての事例を通して理解する					
	8	領域「環境」の指導 「物的環境」 数や文字を意識した遊びを考える					
	9	領域「環境」の指導 「自然環境」 科学遊び (空気・水・光・磁石等) について					
	10	領域「環境」の指導 「自然環境」 食育の取り組み、飼育、栽培体験					
	11	指導案作成 指導案作成による人的環境・物的環境理解					
	12	模擬保育					
	13	模擬保育					
	14	模擬保育からの改善点					
	15	保育者の役割 意図的に環境を構成する役割 子どもの理解者としての役割					
	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況、受講態度、演習における技能習得度</li> <li>・毎回の講義の確認レポート等</li> </ul>						
テキスト 参考文献	テキスト ・体験する・調べる・考える 領域「環境」 (萌文書林) 参考文献等 ・「保育所保育指針解説」 (フレーベル館) ・「幼稚園教育要領解説」 (フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 (フレーベル館)						
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習目標を踏まえ、具体的な保育場面と関連づけながら実践に役立つ知識・技能を習得する。</li> <li>・グループ活動や演習活動においては目的意識を持ち、積極的な学習態度でのぞむこと。</li> <li>・幼児に働きかける環境の世界に自らも興味・関心を持ってかかわり、感動経験を広げること。</li> </ul>						

科目名	こどもの指導法「言葉」 (Child's method of teaching Word)						
学年	1	時期	前期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	山口 清美 (非常勤講師)
授業概要	<p>領域「言葉」のねらいや内容、言葉獲得の道筋、言葉を育てる環境等について理解を深め、豊かな言葉を育てる保育活動を構築する力を養う。</p> <p>言葉を育てる保育者の役割について討議や演習を行い、保育実践に生きる手法・技能を身に付ける。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言葉が育つシステムや言葉の機能について理解し、「保育の基本」との関連を述べることができる。</li> <li>2. 領域「言葉」の目標やねらい、内容について説明することができる。</li> <li>3. 言葉の獲得の道筋を理解し、発達過程に応じた保育内容を工夫することができる。</li> <li>4. 言葉が育つ環境について理解し、環境の構成や適切な援助のあり方を身に付ける。</li> <li>5. 言葉の育ちにかかわる諸問題について理解を深め、場所や個に応じた配慮について述べることができる。</li> <li>6. 様々な児童文化財の意義を理解し、保育における活用の仕方を理解し、適切な環境構成を工夫することができる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション (講師自己紹介 講義の大まかな流れの説明) RST (リーディングスキルテキスト) 体験 評価					
	2	言葉とは何か 言葉の機能 言葉遊びの体験					
	3	領域「言葉」のとらえ方：幼稚園教育要領、保育所保育指針を読み解く 言葉の発達の道筋 言葉を育てる環境構成について 話し言葉と書き言葉の発達について					
	4	現代の言葉の育ちにおける諸問題 携帯スマホによる影響、少子化、核家族化等について考える テスト (2～4までの講義についての小テスト 60分)					
	5	児童文化財について① ペープサート・パネルシアターの実際 製作					
	6	児童文化財について② ペープサート・パネルシアターを使った模擬保育					
	7	保育者の言葉について考える：援助の実際 (子どもに、保護者に) おたより・連絡帳の記入について 指導要録について					
	8	児童文化財について③ 劇遊びの実際：映像で見る テスト (連絡帳の記入、クラスだよりの文章作成 60分)					
	9	幼児教育と言葉 おさらい スクーリングの流れの説明 製作					
	10	乳幼児の言葉の発達過程と保育者としての評価 子どもの言葉の具体例を見ながら発達を考える (感想文提出)					
	11	言葉を豊かに育む活動 (1) 年少向け絵本を読んでお気に入りの1冊を見つける					
	12	言葉を豊かに育む活動 (2) 指導案作成					
	13	言葉を豊かに育む活動 (3) 4歳以上の子どもの言葉と絵本を知る					
	14	保育者とことばのあり方 模擬保育を行う (感想文提出)					
	15	言葉を豊かに育む活動 (4) 0. 1. 2歳児の言葉と絵本を知る。 まとめの話 まとめ レポート作成					
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクーリングまでに2回小テストを行う。</li> <li>・出席状況と受講態度</li> </ul> <p>演習：演習製作・実践の取り組み</p>						

<p>テキスト 参考文献</p>	<p>テキスト ・新保育ライブラリ保育内容「言葉」 （北大路書房）</p> <p>参考文献等 ・配布資料（講師作成 随時配布）          ・「保育所保育指針解説」 （フレーベル館）          ・「幼稚園教育要領解説」 （フレーベル館）          ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 （フレーベル館）</p>
<p>備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義においては、学習のねらいを踏まえ、具体的な保育場面と関連づけながら実践に役立つ知識・技能を習得すること。</li> <li>・講義は配布資料及びテキストを基本とするが、関連資料や参考文献をもとに、さらに知識を広げたり、深めたりすること。</li> <li>・幼児に関わる言語環境や言語文化財に日頃から関心を持ち、自己の言語感覚を高めること。</li> </ul>

科目名	こどもの指導法「リズム表現」(Child's method of teaching Rhythm expression)						
学年	1	時期	前期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	日高 淑(非常勤講師)
授業概要	保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を習得していくことを目的とする。また、子どもの表現の指導援助者として保育内で扱う教材について必要な知識や保育技術を併せて習得しながら感性や人間力の育成を目指す。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育教育要領における領域「表現」の内容について理解する。</li> <li>2. 基本的なリズムを理解し実践を通して習得する。</li> <li>3. 基本的な動作をもとに童謡やわらべ歌などの振付ができる。</li> <li>4. 色々な手遊びや身体遊び、模倣遊び等を習得しその指導の留意点などを理解する。</li> <li>5. 楽器の取扱いと身近な素材を使ったオリジナル楽器の製作や活用ができる。</li> <li>6. 言語(オノマトペ)表現をリズムや動きで表現し、指導の留意点などを理解する。</li> <li>7. 絵本や簡単なストーリーからリズム遊びを創作し互いに見せ合い評価することができる。</li> <li>8. 表現する力を育てるための保育者の役割と援助について理解する。</li> <li>9. 指導案作成の基礎を理解し作成することができる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	授業ガイダンス 表現、リズムについて					
	2	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」について					
	3	手遊び 基本的なリズム 模倣遊び					
	4	手遊び わらべ歌 リズム遊び 童謡の振付など					
	5	手遊び わらべ歌 リズム遊び 手作り楽器					
	6	手遊び 楽器遊び					
	7	手遊び 「表現」の指導計画案について 指導計画案作成					
	8	模擬保育と評価					
	9	身体表現①基本リズムと動き					
	10	身体表現②イメージと動き					
	11	言語表現①オノマトペ 絵本と身体表現					
	12	リズム・表現遊びの創作① グループ活動(テーマ、曲、リズムの選定等)					
	13	リズム・表現遊びの創作② グループ活動					
	14	リズム・表現遊びの創作③ グループ活動					
	15	発表・鑑賞・評価					
	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 科目修得試験、表現技術、表現力、受講態度、レポートなどを総合的に評価する。						
テキスト 参考文献	テキスト ・「子どもと音楽表現」 参考文献等 ・「保育所保育指針解説」(フレーベル館) ・「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館) ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)						
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業には互いに協力しながら積極的に取り組むこと。</li> <li>・配布する資料やレポートなどは整理し各自保管すること。</li> <li>・レポートや課題などの提出物は提出期限をしっかりと守ること。</li> <li>・準備や後片付けなどは互いに協力して積極的に行うこと。</li> </ul>						

科目名	こどもと造形 (Child and Plastic Art)						
学年	1	時期	前期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	上村 幸子 (非常勤講師)
授業概要	<p>幼児造形の指導・援助者として形や色などの造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとに色彩分割及び公正学習を行う。また、具体的な描写によって観察力を養い、合わせて用具や描画材の特徴を利用してさまざまな表現技法から想像力を高め、体験的に理解する。さらに、さまざまな素材をもとに、それらの特性を活かして創意工夫しながら制作を展開し、平面及び立体における造形教育に必要となる知識や技術を身につける。</p>						
到達目標	<p>① 子どもの発達段階に応じた表現活動の違いを説明できる。          ② 糊やはさみの性質を知り、正しい使用することができる。          ③ クレヨンを使ったさまざまな技法を知り、楽しく表現することができる。          ④ 鉛筆で質感、量感、立体感を表すことができる。          ⑤ 色の性質を説明することができる。          ⑥ ポスターカラーの正しい使用方法を知り、作品作りに活かすことができる。          ⑦ おりがみで様々なものを折ることができる。          ⑧ モダンテクニックの表現方法を知り、自分なりに表現して楽しむことができる。          ⑨ 小麦粉粘土・紙（新聞紙）粘土の作り方を知り、作品作りに活かすことができる。          ⑩ 紙版画・スチレン版画の制作過程・作業内容を知り、作品制作をすることができる。          ⑪ 造形あそびの体験を通して楽しむことができる。          ⑫ 様々な制作活動を通して保育における環境構成の大切さに気づくことができる。</p>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	造形表現の意義 自画像をちぎり絵でつくろう のりの使い方について					
	2	描画表現の発達について・子どもの描画の特徴とその背景 点と線を遊ぶ					
	3	クレヨンで描こう					
	4	鉛筆デッサンをしよう					
	5	色の探検 三属性・12色相環 ポスターカラーの使い方について 12色相環・明度段階作成					
	6	平面構成作品制作 ポスターカラーで着色					
	7	いろいろな技法（モダンテクニック）1 スクラッチ・バチック・ステンシル・フロッタージュ・マーブリング・ビー玉転がし					
	8	いろいろな技法（モダンテクニック）2 デカルコマニー・ドリッピング・スパッターリング・にじみ・スタンピング・糸引き					
	9	油粘土であそぼう 新聞紙粘土を作ってあそぼう					
	10	新聞紙粘土作品に着色しよう 小麦粉粘土を作ってあそぼう					
	11	紙版画の版・ステンシル版画の版を作ろう					
	12	紙版画・ステンシル版画を刷ろう					
	13	はさみの使い方について 形の発見 折り紙による制作 おもいで作品集の表紙を作ろう					
	14	おもいで作品集の表紙を作ろう					
	15	造形遊びを楽しもう					
	科目修得試験						

評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 練習課題（20%）制作作品（40%）、科目修得試験（30%）受講態度（10%）
テキスト 参考文献	「造形表現論」（配本テキスト）「幼稚園教育要領解説（最新版）」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説（最新版）」（フレーベル館）
備考	

科目名	表現とこどもの運動 (Expression and child's movement)						
学年	1	時期	前期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	萩元 博子 (非常勤講師)
授業概要	1. 表現運動を安全かつ効果的に指導するための技術と知識を習得する。 2. こども達に、体を動かすことの楽しさ・大切さを伝える。						
到達目標	こどもの発育・発達・個人差を理解することで多種多様な運動プログラムを作成、実践できるようにする。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	社会的背景を考慮しつつ運動遊びの狙い。リズム遊び1					
	2	社会的背景を考慮しつつ運動遊びの援助について (個別の支援計画) リズム遊び2					
	3	こどもの発達と運動について① ・身体・形態・機能・こころの発育発達・リズム遊び3					
	4	こどもの発達と運動について② ・こどもと運動・マット遊び1					
	5	運動遊びの基本的な動き① ・基本運動 (歩・走・跳・投・押・引・転・登)・マット遊び2					
	6	運動遊びの基本的な動き② ・運動表現の要素 (調整力: 身体認知・空間認知)・マット遊び3					
	7	身体のコントロール能力の向上① ・調整力中心の体づくり運動・平均台あそび1					
	8	身体のコントロール能力の向上② ・音・色などの刺激に対応する運動・平均台あそび2					
	9	こどもの表現運動Ⅰ① ・表現運動実施の教育的意義・平均台あそび3					
	10	こどもの表現運動Ⅰ② ・身体表現運動とは ・とび箱遊び1					
	11	こどもの表現運動Ⅱ① ・身体表現運動のねらい ・とび箱遊び2					
	12	こどもの表現運動Ⅱ② ・実施上の留意点 ・とび箱遊び3					
	13	発達段階と表現運動の実践 (表現運動遊びの実践) ① ・年齢別発達における表現遊び (表現リズム運動)、ごっこ遊び、おはじきなど ・コア体操1					
	14	発達段階と表現運動の実践 (表現運動遊びの実践) ② ・手遊びとリズム表現 (糸まき、アルプス一万尺、げんこつ山の狸さん、むすんでひらいて、アイアイ・・・等)・コア体操2					
	15	表現運動 (運動遊び) における安全指導 ・安全管理について (安全の考え方、物理管理・要具管理等)					
	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 実技試験、授業態度などを点数化して評価する。						

<p>テキスト 参考文献</p>	<p>テキスト ・ 「表現とこどもの運動」 配本テキスト</p> <p>参考文献等 ・ 「保育所保育指針解説」 (フレーベル館)          ・ 「幼稚園教育要領解説」 (フレーベル館)          ・ 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 (フレーベル館)          必要に応じて講師作成資料を配布する。</p>
<p>備考</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前に教科書に目を通しておく。</li> <li>2. 体を動かす実技があるため、運動できる服装で参加する。</li> <li>3. 自身の安全・怪我予防に気を付ける。(アクセサリ類、長爪、長髪は結ぶ等)</li> <li>4. 良好な状態で参加できるように普段から体調管理に気を付けておく。</li> </ol>



科目名	乳児保育 I (Day Care for Infant I)						
学年	1	時期	後期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	1	時間数	15	授業形態	講義	担当講師	松下 律子 (非常勤講師)
授業概要	1. 乳児保育の意義や目的、歴史的変遷を学び、保育所や児童福祉施設等多様な保育現場における現状や今日的課題から乳児保育の役割を理解する。 2. 3歳未満児の発育・発達を理解し、各発達段階を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 3. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。						
到達目標	1. 乳児保育の理念や様々な乳児保育施設における保育士の役割が説明できる。 2. 乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題が説明できる。 3. 乳児及び1歳以上3歳未満の子どもの心身の発達や保育士の援助のあり方が説明できる。 4. 乳児保育施設と家庭・地域の連携の必要性を述べるができる。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション、乳児保育の意義・目的と歴史的変遷					
	2	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題					
	3	保育所における乳児保育					
	4	保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育及び家庭的保育・小規模保育					
	5	3歳未満児の生活と環境「満1歳未満児（運動機能、認知機能、生活や遊び）」					
	6	3歳未満児の生活と環境「1歳以上2歳未満児の保育」（演習）アクティブラーニング					
	7	3歳未満児の生活と環境「2歳以上3歳未満児の保育」（演習）アクティブラーニング					
	8	乳児保育における環境構成（乳児の発達と玩具）理論					
	9	乳児保育におけるあそびと環境・物的環境（1）玩具作成（実技）					
	10	乳児保育におけるあそびと環境・物的環境（2）玩具作成、発表、評価（実技）					
	11	乳児保育における発達と環境構成					
	12	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育者による援助やかかわりや配慮					
	13	乳児保育の計画・記録・評価とその意義					
	14	職員間の連携・協力 保護者との連携・協働					
	15	自治体や地域の関係機関等との連携					
	科目履修試験						
評価方法	学科試験60%、学習ノート（授業外学習）、20%、提出物20%で総合的に評価し、6割以上で単位を認定する。						
テキスト 参考文献	使用テキスト 新基本保育シリーズ 乳児保育 I・II (中央法規) 参考文献等 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼児理解に基づいた評価」(文部科学省) 乳児保育〈2〉一日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践 改訂初版(萌文書林) 社会福祉法人あずみ福祉会 茶々保育園グループ 養成校と保育室を つなぐ理論と実践(萌文書林)等 その他 講師作成資料						
備考	・学習ノートを配布します。毎回、授業のポイントや自己評価及び感想を記入し、自分の考え方、思いをしっかりと記述するようにしましょう。						

科目名	障害児保育 (Special Needs Nursing)						
学年	1	時期	前期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	黒川 由紀 (専任教員)
授業概要	1. 様々な障害について理解し、個々の発達ニーズにあわせた援助のあり方について学んでいく。 2. 障害児を取り巻く環境の現状と課題について学習する。 3. 障害児の保護者や家族の支援、関係機関や地域との連携について学習する。						
到達目標	1. 様々な障害の特性を理解し、発達ニーズに対応した支援のあり方を考察できる。 2. 障害児を取り巻く人的・物的環境の現状と地域社会における課題を理解し、保育者としての関わり方を習得する。 3. 障害児保育を支える環境について考え、保護者や家族の支援のあり方を理解できる。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 障害児保育とは					
	2	「障害」の概念と障害児保育の歴史の変遷					
	3	地域社会への参加・包容および合理的配慮の理解					
	4	障害児の理解とその援助① 肢体不自由児					
	5	障害児の理解とその援助② 知的障害児					
	6	障害児の理解とその援助③ 視覚・聴覚・言語障害児					
	7	障害児の理解とその援助④ 発達障害児					
	8	障害児の理解とその援助⑤ 重症心身障害児 医療的ケア児					
	9	特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助					
	10	指導計画および個別の支援計画の作成					
	11	発達をうながす生活や遊びの環境の理解					
	12	こども同士のかかわりと育ち合い					
	13	障害児保育における健康と安全					
	14	職員間の連携・協働 地域専門職との連携					
	15	福祉・教育における現状と課題					
	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験70% ・レポート課題20% ・受講状況(演習含む)10%						
テキスト 参考文献	テキスト：新 基本保育シリーズ⑰ 障害児保育 (中央法規出版社) その他：講師作成資料						
備考	・視聴覚教材等による事例を通して考え、具体的に考察できるようにグループワークに参加してほしい。 ・事例等の配付資料も活用すること。 ・課題やレポートは、提出期日を厳守すること。						

科目名	保育実習指導 I (Guidance of Practical Nursing I)						
学年	1	時期	通年	分野	保育実習	必修選択	必修
単位数	2	時間数	60	授業形態	演習	担当講師	新名 隆宏 (専任教員)
授業概要	<p>保育実習の意義・目的を理解し、今までの学びを考えながら、こどもをどう援助していくか演習を通して考える。実習の流れと心得をテキスト中心に学び、自分の実習課題を明確にする。</p> <p>また、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。事後指導では実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</p>						
到達目標	<p>① 保育実習の意義と目的、段階、内容について理解し説明できる</p> <p>② 実習施設の種類について理解し、特性について述べるができる。</p> <p>③ 実習に対する心構え、態度を身につけ行動する。</p> <p>④ 実習のねらい及び達成課題を明確にし、文章化できる。</p> <p>⑤ 実習日誌・指導案などの記入方法を理解し、記録できる。</p> <p>⑥ 実習に必要な書類の作成や手続きを主体的にできる。</p> <p>⑦ 実習後振り返りをして、自己評価をし、新たな課題を明確にし、文章化できる。</p>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	保育実習の意義 保育実習の目的と概要					
	2	福祉職としての保育士 全国保育士会倫理綱領とは 実習園希望調査について					
	3	保育実習の心構えと準備 実習の内容 保育所実習					
	4	保育所の役割と機能 保育所の1日					
	5	施設養護の目的や意義					
	6	保育所保育士の職務理解					
	7	子どもの人権と最善の利益の考慮 夏季休暇中保育園見学について					
	8	保育所における子ども理解①					
	9	保育所における子ども理解②					
	10	実習園の環境について 園平面図 人的環境・物的環境					
	11	保育所実習における観察、記録及び評価 実習日誌の記入の仕方について					
	12	保育所実習における計画と実践①					
	13	保育所実習における計画と実践②					
	14	保育所実習における計画と実践③					
	15	保育環境と安全 感染症予防 インフルエンザ予防接種について					
	16	手作り名札製作①					
	17	手作り名札製作②					
	18	手作り名札製作③					
	19	2年生保育実習Ⅱ・Ⅲ実習報告会聴講					
	20	実習の課題とは					
	21	実習の自己課題の立て方					
	22	実習の自己課題のまとめ					
	23	実習の自己課題 「保育実習Ⅰaにのぞんで」					
	24	オリエンテーション事前指導 プライバシーの保護と守秘義務					
	25	オリエンテーション					
	26	オリエンテーション報告・まとめ					
	27	実習事前指導 実習生としての心構え					
	28	実習事後指導 実習の総括と自己評価					
	29	実習報告会 課題の明確化					
30	実習報告会を終えて						

評価方法	事前学習課題（40%）手作り名札（10%）実習にのぞんで・終えて（20%） 実習報告内容・実習報告会（20%）受講態度（10%）を総合的に評価し、6割以上で単位を認める。
テキスト 参考文献	「新基本保育シリーズ20 保育実習」（中央法規） 「保育福祉小六法2022」（みらい） 「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」（全国社会福祉協議会） 「宮崎県の福祉と保健」（宮崎県社会福祉協議会） 「0歳～6歳子どもの発達と保育の本」（学研） 「実習の記録と指導案」（ひかりのくに）
備考	

科目名	保育実習 I a (Practical Nursing I a)						
学年	1	時期	後期	分野	保育実習	必修選択	必修
単位数	2	時間数	90	授業形態	実習	担当講師	新名隆宏 (専任教員) 椎屋良子 (専任教員) 宮下清子 (専任教員) 横山澄子 (専任教員) 黒川由紀 (専任教員)
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。</li> <li>4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義と目的、段階、内容について理解し説明できる</li> <li>2. 実習施設の種類について理解し、特性について述べることができる。</li> <li>3. 実習に対する心構え、態度を身につけ行動する。</li> <li>4. 実習のねらい及び達成課題を明確にし、文章化できる。</li> <li>5. 実習日誌・指導案などの記入方法を理解し、記録できる。</li> <li>6. 実習に必要な書類の作成や手続きを主体的にできる。</li> <li>7. 実習後振り返りをして、自己評価をし、新たな課題を明確にし、文章化できる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	10日 間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の役割と機能 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育所の生活と一日の流れ</li> <li>(2) 保育所保育指針の理解と保育の展開</li> </ul> </li> <li>2. 子ども理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの観察とその記録による理解</li> <li>(2) 子どもの発達過程の理解</li> <li>(3) 子どもへの援助やかかわり</li> </ul> </li> <li>3. 保育内容・保育環境 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育の計画に基づく保育内容</li> <li>(2) 子どもの発達過程に応じた保育内容</li> <li>(3) 子どもの生活や遊びと保育環境</li> <li>(4) 子どもの健康と安全</li> </ul> </li> <li>4. 保育の計画、観察、記録 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育課程と指導計画の理解と活用</li> <li>(2) 記録に基づく省察・自己評価</li> </ul> </li> <li>5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育士の業務内容</li> <li>(2) 職員間の役割分担や連携</li> <li>(3) 保育士の役割と職業倫理</li> </ul> </li> </ol>					
評価方法	日々の実習日誌記録状況、実習指導者よりの評価と所見、実習巡回での状況を踏まえ、総合的に評価する。						
テキスト 参考文献	「新基本保育シリーズ20 保育実習」(中央法規) 「保育福祉小六法2023」(みらい) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「宮崎県の福祉と保健」(宮崎県社会福祉協議会) 「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」(全国社会福祉事業団) 「実習の記録と指導案」(ひかりのくに)						
備考							

科目名	教育心理学 (Educational psychology)						
学年	1	時期	前期	分野	保育の対象の理解	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	野崎 秀正 (非常勤講師)
授業概要	<p>教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。この授業では、幼児の心身の発達と学習の過程（障害のある幼児の心身の発達及び学習の過程を含む）に関する教育心理学の基礎的事項について学ぶ。特に幼児期における心理学的な法則や現象を理解し、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について学ぶ。また、各発達段階における発達の特徴や幼児一人一人の個人差に応じた教育的対応についての理解を深め、教育現場における教育的内容に対応できる知識を習得する。また、授業形態は講義であるが、グループでの話し合い等アクティブラーニングの要素を部分的に取り入れることにより、論理的思考力、コミュニケーション能力、問題解決能力等の教師に必要な汎用的能力を伸ばすことも期待される。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 従来の研究で明らかにされてきた教育心理学の理論や知見の理解を通して、洞察に満ちた人間観、教育観を形成し、その内容について自分の言葉で説明できる。</li> <li>2. 発達とは何かについて理解し、各発達段階の特徴と発達過程について説明することができる。</li> <li>3. 人の学習過程において重要になる認知、記憶、思考、行動等の心的特徴を説明できる。</li> <li>4. 教育心理学の知見の応用としての具体的な教育実践の方法について説明できる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション (教育心理学とは)					
	2	教育心理学の研究法					
	3	発達の規定因 (遺伝と環境)					
	4	発達段階と身体の発達					
	5	知の発達 (ピアジェの認知発達理論)					
	6	遊びの発達					
	7	様々な学習の理論 (行動主義心理学、認知理論)					
	8	記憶の基礎理論と学習における記憶の役割					
	9	知能とその測定					
	10	学ぶ意欲と動機づけの理論					
	11	どのように教えるか (学習指導の形態)					
	12	教育評価					
	13	パーソナリティとその測定					
	14	発達とところの問題への対応					
	15	まとめ (教育心理学と教育実践)					
	科目修得試験						
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <p>平常評価 (講義内における発問への応答、質問、グループ学習への参加度) 10%、レポート課題 40%、科目修得試験 (筆記試験) 50%、で総合的な評価を行う。</p>						
テキスト 参考文献	<p>テキスト ・ 幼稚園教育要領解説 (フレーベル館)</p> <p>参考文献等 ・ 授業ごとに配布する自作のワークシート</p>						
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業で学習した内容が実際の教育実践にどのように活用できるのかを考えながら学習する。</li> <li>・ 授業内での他の受講生との話し合いや教え合いには積極的に参加する。</li> </ul>						

科目名	言葉とこどもの文化 (Word and child's culture)						
学年	1	時期	後期	分野	保育の対象の理解	必修選択	必修
単位数	1	時間数	15	授業形態	講義	担当講師	黒川 由紀 (専任教員)
授業概要	1. 領域「言葉」の内容を踏まえ、児童文化財と言葉の習得の関係性について学ぶ。 2. 保育の現場で活かせる児童文化財を通して幼児期の言葉の特徴を理解する。						
到達目標	1. 言葉の機能を理解し、絵本・紙芝居・お話等の児童文化財への知識を深める。 2. わらべうたの特徴を知り、言葉の発達にどう関わるかを学ぶ。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	乳幼児期の言葉の発達と保育者の役割					
	2	言葉を育てる児童文化財とは					
	3	言葉を育むための環境					
	4	言葉を育てる児童文化財① 絵本・紙芝居					
	5	言葉を育てる児童文化財② お話・パネルシアター					
	6	言葉を育てる児童文化財③ エプロンシアター・ペープサート					
	7	わらべうたの特徴					
	8	わらべうたの実践					
	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験60% ・提出物、レポートの取り組み40%						
テキスト 参考文献	① 言葉とこどもの文化 (配本テキスト) ② 保育所保育指針解説 (フレーベル館) ③ 幼稚園教育要領解説 (フレーベル館) ④ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (フレーベル館)						
備考	随時プリントを配付する。						

科目名	人間関係論 (Theory of human relationship)						
学年	1	時期	前期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	1	時間数	15	授業形態	講義	担当講師	伊東 みゆき(非常勤講師)
授業概要	現代のこどもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児（保育）教育で保証すべき教育内容に関する知識を身につける。こどもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、こどもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関りを通じて育つことを理解する。						
到達目標	1. 領域「人間関係」の基礎理論を理解し、関係発達論的な視点から論じることができる。 2. こどもを取り巻く環境の変化について理解し、こどもが人間関係をつむぎながら成長する過程を理解する。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	領域「人間関係」 ・ねらいと内容      ・領域の相補性（保育活動の総合性とは）					
	2	人間関係と取り巻く社会環境① ・少子高齢化      ・家族の変化					
	3	人間関係と取り巻く社会環境② ・身近な環境の変容      ・メディアの変化					
	4	人間関係をつむぐこどもの発達 ・規範意識と道徳性の芽生え（育ち）      ・ルール、決まりごとの意味と意義					
	5	人間関係をつむぐこどもの発達 ・自立心、協働性の芽生え（育ち）      ・自己発揮と自己抑制の芽生え（育ち）					
	6	人間関係とこどもの遊び ・遊びの中で育つ乳児の人間関係      ・遊びの中で育つ幼児の人間関係					
	7	人間関係とこどもの生活 ・家族とのかかわりとこどもの発達      ・地域とのかかわりとこどもの発達					
	8	今日的な人間関係の課題（多様な文化のこどもと気に留めたいこども）					
	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。（レポート評価はルーブリック評価を用いる） ・科目修得試験の結果により判定し評価する。						
テキスト 参考文献	テキスト      ・配本テキスト「人間関係論」（豊岡短期大学） ・「幼稚園教育要領解説」（最新版）      フレーベル館 ・「保育所保育指針解説」（最新版）      フレーベル館 ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）      フレーベル館						
備考	・授業は事前にテキストからポイントを把握し、質問事項等をまとめておくこと。 ・課題やレポートは提出期限を厳守すること。						



科目名	音楽表現 (Musical expression)						
学年	1	時期	通年	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	2	時間数	60	授業形態	演習	担当講師	横山 澄子 (専任教員)
授業概要	<p>1. 養護と教育に関わる領域「表現」の目標を理解し、子どもの感性を豊かに展開するために必要な知識や技能を習得する。</p> <p>2. 子どもの発達を表現の領域の観点から捉え、音楽表現指導に関する専門的知識・技能を身に付ける。</p>						
到達目標	<p>1. 鍵盤楽器の演奏技術や音楽の基礎知識を身に付ける。</p> <p>2. 子どもの発達段階に応じて手遊びを実践し、音楽表現をすることができる。</p>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション、2つのコード (C G7) の説明					
	2	簡易曲の演奏 (かえるの合唱、じゃんけん列車)、手遊びの実践					
	3	簡易曲の演奏 (みつばちマーチ、メリーさんの羊)、手遊びの実践					
	4	簡易曲の演奏 (ぶんぶんぶん、グーチョキパーで何作ろう)、手遊びの実践					
	5	保育における音楽の役割					
	6	園生活の童謡 (おべんとう、他)					
	7	3つのコード (C F G7) の説明 簡易曲 (ハッピーバースディ) の演奏					
	8	領域「表現」について・「豊かな感性を育む」とは					
	9	園生活の童謡 (おかえりのうた)					
	10	園生活の童謡 (さよならのうた)					
	11	楽典「音名」「音符、休符」					
	12	小テスト (実技)					
	13	楽典「拍子」					
	14	楽典「リズム」					
	15	子どもに聴かせたい曲					
		科目修得試験 (筆記)					
	16	春の童謡「こいのぼり、他」、手遊びの実践					
	17	春の童謡「めだかのがっこう、他」					
	18	夏の童謡「うみ、他」、手遊びの実践					
	19	夏の童謡「シャボンだま、他」					
	20	夏の童謡「とんぼのめがね、他」					
	21	秋の童謡「どんぐりころころ、他」、手遊びの実践					
	22	秋の童謡「まつぼっくり、他」					
	23	秋の童謡「大きなくりの木の下で、他」					
	24	冬の童謡「あわてんぼうのサンタクロース、他」、手遊びの実践					
	25	冬の童謡「ゆき、他」					
	26	冬の童謡「雪のペンキやさん、他」					
	27	冬の童謡「たきび、他」					
	28	行事の童謡「まめまき」、手遊びの実践					
29	行事の童謡「うれしいひなまつり」、手遊びの実践						
30	実習に向けて童謡の歌唱、手遊びの実践						
	科目修得試験 (実技)						

評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <p>科目修得試験（筆記と実技）40% 小テスト20% 毎回の課題曲の達成状況40%</p>
テキスト 参考文献	<p>①こどものうたベストテン（ドレミ出版）          ②保育で役立つ！0～5歳児の手遊び歌遊び（ナツメ社）          ③音楽表現論（配本テキスト）          ④保育所保育指針解説（フレーベル館）⑤幼稚園教育要領解説（フレーベル館）          ⑥幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）          ⑦講師作成楽譜集</p>

科目名	造形表現 (Expression of Plastic Art)						
学年	1	時期	後期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	上村 幸子 (非常勤講師)
授業概要	<p>幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現、つくる表現そして造形あそびの領域と技法について、また、それに伴った材料、用具の特性と利用について理解していく。さらに美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題を学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。</li> <li>2. 乳幼児の表現活動の大切さと表現にともなう形、色、材質、手法、材料等について理解できる。</li> <li>3. 乳幼児のえがく、つくる造形活動について、発達段階を踏まえた材料や手法の取り扱いと指導援助について理解できる。</li> <li>4. 幼児の発達と幼児教育（保育）の方法について理解できる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」領域を踏まえた幼児造形表現の学習					
	2	こどもの発達段階とえがく、つくる、造形あそびの造形活動の意義					
	3	こどもにとって造形表現とは					
	4	こどもの絵の発達と道筋					
	5	「なぐりがきの時期」・「象徴期」・「図式期」の特徴と指導援助の留意点					
	6	こどもの発達段階を踏まえた、えがく活動の特徴と指導、援助、評価 見たことをかく					
	7	こどもの発達段階を踏まえた、えがく活動の特徴と指導、援助、評価 体験したことをかく・想像したことをかく					
	8	えがく活動における形態・色彩の理論 絵画技法、製作内容と材料・用具					
	9	造形活動の環境づくり					
	10	こどもの発達段階を踏まえた、つくる活動の特徴と指導、援助、評価					
	11	つくる活動における技法と活用、つくる活動の素材（廃材）、製作内容と材料・用具					
	12	こどもの発達段階を踏まえた、造形遊びの特徴と指導、援助、評価					
	13	造形あそびにおける各種表現技法、製作内容と材料・用具					
	14	実践的な指導法の学習と情報機器及び教材の活用					
	15	美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題とまとめ					
	科目修得試験						
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <p>制作作品評価（30%） レポート課題（30%） 科目修得試験（40%）</p>						
テキスト 参考文献	<p>「造形表現論」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説（最新版）」（フレーベル館）  「保育所保育指針解説（最新版）」（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）」（フレーベル館）  「保育をひらく造形表現」（萌文書林）</p>						
備考							

科目名	教育方法論 (Teaching Methods)						
学年	1	時期	前期	分野	独自科目	必修選択	必修
単位数	1	時間数	8	授業形態	講義	担当講師	上村 幸子 (非常勤講師)
授業概要	<p>教育方法とは何か。その定義と意義、守備範囲についての知識を習得したのちに、教育方法の歴史的変換を概観することをとおして、先人がどのような思想のもとに教育方法を展開してきたのかを考察する。さらに、教育に活用できる情報機器、教材・教具についての理解を深めたのちに学習指導の理論と授業の方法、および評価について理解する。また、幼児教育（保育）の方法、並びに小学校教育との連携について考察する。そして教育方法の課題と今後の展望について検討する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育方法の定義と意義、守備範囲等の概念についての基本的知識を理解できる。</li> <li>2. 教育方法の変遷について理解できる。</li> <li>3. 授業についての概要を知り、学習指導の形態と方法について理解できる。</li> <li>4. 教育技術の革新について理解するとともに情報機器の活用を説明できる。</li> <li>5. 生徒指導の原理と方法及びその実際について知り、学習指導と生徒指導の関係について理解できる。</li> <li>6. 幼児の発達と幼児教育（保育）の方法について理解できる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	教育方法の定義・意義と守備範囲 教育方法の歴史的展開					
	2	教育技術の革新と情報機器の活用					
	3	教材・教具の理解と活用 特色ある授業実践					
	4	教育現場における授業技術 授業分析と授業評価 授業展開の構想					
	5	幼児の理解と幼児教育（保育）の方法（生徒指導との関係も踏まえて）					
	6	幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼児教育（保育）内容と小学校の教育内容					
	7	教育方法の課題と展望					
	8	課題によるレポート作成					
	科目修得試験						
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 科目修得試験（60%）小テスト（30%） 受講態度（10%）</p>						
テキスト 参考文献	<p>「教育方法論」（配本テキスト） 「幼稚園教育要領解説（最新版）」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説（最新版）」（フレーベル館）</p>						
備考							

科目名	保育技術演習 (Nurture technological practice)						
学年	1・2	時期	後期・前期	分野	教養	必修選択	必修
単位数	2	時間数	60	授業形態	演習	担当講師	岩切 美知子(専任教員) 黒川 由紀(専任教員)
授業概要	<p>子どもの発達と、絵本、紙芝居、ペープサート等に関する知識を学び、子どもの前で演じられる技術を習得する。</p> <p>実際に保育教材を作り、それを子ども達の前で演じられる技術を習得する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの発達段階に応じた絵本・紙芝居の選択ができ、読み聞かせをすることができる。</li> <li>2. 表情豊かに読み聞かせする事が、園児の情操教育や言語指導につながることを説明できる。</li> <li>3. ペープサートの作り方を理解し、楽しく操作し演じることができる。</li> <li>4. 視覚的な自己紹介作品を制作し、園児の前でわかりやすく自己紹介できる。</li> <li>5. 数多くの手遊びを覚え、園児の前で自信もって実践することができる。</li> <li>6. パネルシアターの絵人形の作り方を理解し、楽しく製作することができる。</li> <li>7. パネルシアターの演じ方を覚え、楽しく演じることができる。</li> <li>8. 紙皿・紙コップを使った保育教材を作り、実践に役立たせることができる。</li> <li>9. 回転絵本の仕組みを理解し、製作し、楽しく演じることができる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 自己紹介作品について					
	2	自己紹介作品 制作	・手遊び演習				
	3	自己紹介演習 絵本の読み聞かせについて	・手遊び演習				
	4	絵本の読み聞かせ・大型絵本の読み聞かせ 演習	・手遊び演習				
	5	絵本の読み聞かせの発表	・手遊び演習				
	6	紙芝居 演習 発表	・手遊び演習				
	7	ペープサートについて 制作	・手遊び演習				
	8	ペープサート制作	・手遊び演習				
	9	ペープサート制作	・手遊び演習				
	10	ペープサートの発表	・手遊び演習				
	11	手袋シアター制作	・手遊び演習				
	12	手袋シアター制作・演習	・手遊び演習				
	13	手袋シアター演習	・手遊び演習				
	14	ペープサート発表	・手遊び演習				
	15	手袋シアター発表					
	16	パネルシアターとは 題材決定					
	17	パネルシアター制作 下書き					
	18	パネルシアター制作 着色①					
	19	パネルシアター制作 着色②					
	20	パネルシアター制作 着色③					
	21	パネルシアター制作 切り取り・糸留め					
	22	パネルシアター発表練習					
	23	パネルシアター発表・評価①					
	24	紙皿工作					
	25	紙コップ工作					
	26	回転絵本製作 構想・下絵					
	27	回転絵本製作 回転絵本組み立て 場面製作					
28	回転絵本製作 場面製作						

	29	回転絵本制作 場面制作
	30	回転絵本発表
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 練習課題（20%）提出作品（60%）発表（20%）	
テキスト 参考文献	「保育で役立つ！0～5歳児の手遊び・うたあそび」（ナツメ社保育シリーズ） 「保育をひらく造形表現」（萌文書林） 「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）	
備考		

科目名	こどもの指導法「音楽表現」(Child's method of teaching Musical expression)						
学年	1・2	時期	1年後期 2年前期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	2	時間数	60	授業形態	演習	担当講師	横山 澄子(専任教員) 日高 淑(非常勤講師)
授業概要	1. 子どもの音楽的感性や創造性を豊かにする音楽表現に関する知識や技術を習得する。 2. 子どもの発達を表現の領域から捉え、子ども理解を深めながら保育内容を具体的に学ぶ。 3. 保育現場で活かせる演奏技術と指導方法を学ぶ。						
到達目標	1. 基礎演習Ⅰ・Ⅱ、実践演習の学習順序に従って学習を進めていく。 2. 童謡を弾き歌いし、音楽を通して子どもと触れ合う力を身に付ける。 3. ピアノ、ソルフェージュの練習に取り組み、毎回の課題を達成する。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 基礎演習に向けてバイエル予習					
	2	バイエル・ソルフェージュ学習					
	3	基礎演習Ⅰ① バイエル・ソルフェージュ					
	4	基礎演習Ⅰ② バイエル・ソルフェージュ					
	5	基礎演習Ⅰ③ バイエル・ソルフェージュ					
	6	基礎演習Ⅰ④ バイエル・ソルフェージュ					
	7	基礎演習Ⅰ⑤ 実技技能評価					
	8	基礎演習Ⅱに向けてバイエル予習					
	9	バイエル学習					
	10	ソルフェージュ学習					
	11	基礎演習Ⅱ① バイエル・ソルフェージュ					
	12	基礎演習Ⅱ② バイエル・ソルフェージュ					
	13	基礎演習Ⅱ③ バイエル・ソルフェージュ					
	14	基礎演習Ⅱ④ バイエル・ソルフェージュ					
	15	基礎演習Ⅱ⑤ 実技技能評価					
	16	童謡の弾き歌い① 園生活の歌					
	17	童謡の弾き歌い② 季節の歌「春」の童謡					
	18	童謡の弾き歌い③ 季節の歌「夏」の童謡					
	19	童謡の弾き歌い④ 季節の歌「冬」の童謡					
	20	童謡の弾き歌い⑤ 行事の歌					
	21	実践演習① 童謡の弾き歌い					
	22	実践演習② 童謡の弾き歌い					
	23	実践演習③ 童謡の弾き歌い					
	24	実践演習④ 童謡の弾き歌い					
	25	実践演習⑤ 実技技能評価					
	26	実習に向けて 季節の歌「秋」の童謡の弾き歌い①					
	27	実習に向けて 季節の歌「秋」の童謡の弾き歌い②					
	28	行事の歌①・合奏					
	29	行事の歌②・合奏					
30	行事の歌③・合奏						
	科目修得試験(実技)						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験30% ・基礎演習ⅠⅡ、実践演習実技技能評価20% ・課題曲達成状況50%						

<p>テキスト 参考文献</p>	<p>①こどもと音楽表現（配本テキスト）②こどもの歌ベストテン（ドレミ出版社） ③保育で役立つ！0～5歳児の手遊び歌遊び（ナツメ社） ④保育所保育指針解説・幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）</p>
<p>備考</p>	<p>講師作成楽譜集、並びに随時プリントを配付する。</p>



科目名	保育者実践 (Nurture person practice)						
学年	1・2	時期	後期・前期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	岩切美知子（専任教員） 宮下清子（専任教員） 黒川由紀（専任教員） 横山澄子（専任教員）
授業概要	1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 保育所を訪問して、観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 保育の計画、観察、記録について具体的に理解する。						
到達目標	1. 保育所の役割や機能について説明することができる。 2. 子どもの発達段階について理解することができる。 3. 配属クラスの子どもの姿に応じた保育計画が立案できる。 4. 自分達で立案した保育案に沿って保育実践ができる。 5. 実習日誌・保育案などの記入方法を理解し、記録できる。 6. 実践後振り返りをして、グループ反省・討議をし、新たな課題を明確にし、文章化できる。						
授業計画	回数	授業内容					
	1	保育者実践指導「保育園訪問」について 配属園発表、グループ編成、観察の視点について 配属クラス子どもの姿					
	2	保育内容計画立案（自己紹介の工夫など）準備 リハーサル					
	3	保育内容計画立案					
	4	第1回保育園訪問					
	5	反省・保育内容計画立案					
	6	保育内容計画立案					
	7	保育内容計画立案・準備					
	8	準備・リハーサル					
	9	第2回保育園訪問					
	10	反省・保育内容計画立案					
	11	保育内容計画立案					
	12	保育内容計画立案・準備					
	13	準備・リハーサル					
	14	第3回保育園訪問					
	15	反省/3回の保育園訪問を振り返って					
	16	2年次「保育園訪問」について グループ編成 配属クラス子どもの姿					
	17	保育内容計画立案（自己紹介の工夫を含む）					
	18	保育内容計画立案・準備					
	19	準備・リハーサル					
	20	第1回保育園訪問					
	21	反省・保育内容計画立案					
	22	保育内容計画立案・準備					
	23	保育内容計画立案・準備					
	24	準備・リハーサル					
	25	第2回保育園訪問					
	26	反省・保育内容計画立案					
	27	保育内容計画立案・準備					
	28	保育内容計画立案・準備					
29	グループ内模擬保育						

	30	グループ内模擬保育 保育者実践振り返り
評価方法	各自が立案した保育案、グループにおける実践への取り組み、訪問後の記録を総合的に評価する。	
テキスト 参考文献	「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館) 「新基本保育シリーズ20 保育実習」(中央法規) 「宮崎県の福祉と保健」(宮崎県社会福祉協議会)「実習の記録と指導案」(ひかりのくに) 0歳～6歳子どもの発達と保育の本(学研)	
備考		

科目名	教育実習事前・事後指導 (Guidance of Practical Teaching)						
学年	1・2	時期	後期・前期	分野	独自科目	必修選択	必修
単位数	1	時間数	15	授業形態	演習	担当講師	岩切 美知子(専任教員) 菊田 恭子(非常勤講師)
授業概要	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。また、幼児の発達の特長や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標をもって実習に臨む態度を育成する。また、実習後、総括と反省を行い、課題や目標を明確にする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実習の意義と目的、内容について理解し説明できる。</li> <li>2. 実習に対する心構え、態度を身に付けて行動する。</li> <li>3. 実習記録・指導案・週案などの記入方法を理解し、記録、作成できる。</li> <li>4. 実習に必要な書類の作成や手続きを主体的にできる。</li> <li>5. 実習後の振り返りをして、自己評価を行い新たな課題を明確にし、文章化できる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	実習の意義と目的 (1) 幼稚園教育の特質 (2) 実習の意義と目的 (3) 保育者としての倫理(守秘義務、職務に専念する義務等)					
	2	教育実習の流れと手続き、その内容 (1) 実習生としての心構え (2) 事前相談・打ち合わせ					
	3	観察・参加・責任実習 (1) 長期指導計画、短期指導計画 (2) 子どもを取り巻く環境(環境構成) (3) 幼児理解と保育					
	4	教師の援助 (1) 保護者理解と支援 (2) 特別な支援を要する子どもへの対応					
	5	実践演習 (1) 手遊び・読み聞かせ等 (2) 自己紹介作品制作・実践					
	6	指導案作成 (1) 指導案とは何か (2) 指導案作成の実際					
	7	実習の総括と評価、課題の明確化 (1) 幼児の理解と学び (2) 保育者の活動からの学び					
8	まとめ (1) 「教師の役割について」 (2) 実習の振り返り・自己課題について						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ①事前学習内容(20%)②教育実習(幼稚園)実習1・2目標(10%) ③オリエンテーション報告書(10%)④総括・反省(10%)⑤お礼状(10%) ⑥報告書(10%)⑦報告会内容、態度(20%)⑧自己課題(10%)						
テキスト 参考文献	幼稚園教育実習事前・事後指導(配本的テキスト) 幼稚園教育要領解説 フレーベル館 幼保連携型認定こども園解説 フレーベル						
備考	教育実習 実習要項 (宮崎医療管理専門学校 こども科)						

科目名	全学連携演習 1・2 (Cooperative Learning)						
学年	1・2	時期	前期	分野	その他(医・介) 独自科目(こども)	必修選択	必修
単位数	1	時間数	15	授業形態	演習	担当講師	各グループ担当教務
授業概要	本校では、医療、介護福祉、保育、幼児教育分野それぞれの専門的な学習を行っている。将来、それぞれの専門職として活躍するためには、他の専門職と連携を図りながら実践していく。その第一歩として、本校で学ぶ仲間と交流を図りながら、自らが学ぶ学習領域以外にも触れていき、その経験を将来それぞれの立場で活用可能なものにしていくことを目的とする。また、自らが学ぶ内容を他学科学生に紹介することで、改めて自らが学ぶ専門性について理解を深めていく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学年、学科を越えた仲間との積極的な交流を図る。</li> <li>2. 自らの学習領域以外の分野に触れて理解を深める。</li> <li>3. 自らが学ぶ専門分野について、他学科の学生に紹介できる。</li> <li>4. 交流の中で、意見交換を行いながら、各個人が意見や考えを持ち、それをもとに主体的に行動する態度を涵養する。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション・自己紹介					
	2	交流レクリエーション					
	3	学生自らが実施する体験授業の検討、準備 (今年度の全学連携演習は、自らが在籍する学科で学んでいる内容を他学科の学生に紹介する体験授業を学生自らが実施する。これを実施するための内容検討、企画、準備等をこの回に実施していく。)					
	4						
	5	各グループでの体験授業					
	6	(学生自らが企画、準備した体験授業を実施する。)					
	7						
	8	振り返り					
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 出席状況及び活動状況 (60%)、活動記録及び総括レポート提出 (40%)						
テキスト 参考文献	別冊「全学連携演習ファイル」						
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回活動の際には、別冊「全学連携演習ファイル」を持参しておくこと。</li> <li>・ 活動後には、「全学連携演習ファイル」を担当教務に提出すること。</li> </ul>						

科目名	情報機器演習 (Information machinery practice)						
学年	2	時期	前期	分野	教養	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義・演習	担当講師	福元 進 (専任教員)
授業概要	情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識及び技術を身に付ける。						
到達目標	1. ハードウェアの名称と役割を理解する。 2. ソフトウェアの種類と役割を理解する。 3. ネットワークの仕組みと技術について理解する。 4. ネットワークの脅威とセキュリティ技術について理解する。 5. Windowsの基本操作を習得する。 6. オフィスソフトの基本操作を習得する。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション、情報化社会と情報システム					
	2	コンピュータのしくみとハードウェア①					
	3	コンピュータのしくみとハードウェア②					
	4	コンピュータのしくみとハードウェア③					
	5	ソフトウェア					
	6	情報とネットワーク					
	7	インターネットの仕組み					
	8	情報システムの課題 (情報セキュリティ)					
	9	まとめ					
	10	文書作成ソフト演習①					
	11	文書作成ソフト演習②					
	12	表計算ソフト演習①					
	13	表計算ソフト演習②					
	14	プレゼンテーションソフト演習					
	15	HTML演習					
	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 80% ・出席、受講態度等 20%						
テキスト 参考文献	・使用テキスト 情報リテラシーと処理技術 (配本テキスト) ・参考文献等 ①「栢木先生のITパスポート教室」 ②「30時間でマスターWORD2016」 ③「30時間でマスターEXCEL2016」						
備考							

科目名	社会福祉 (Social welfare)						
学年	2	時期	前期	分野	保育の本質・目的	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	川野 哲朗 (専任教員)
授業概要	<p>少子高齢化の進行や地域社会及び家庭機能の変容、貧困や格差等、現代社会が抱える問題は、子どもの生活や成長、発達に大きな影響を及ぼしている。</p> <p>本授業では、そのような問題に対する社会福祉（制度）の有り様や保育者等福祉従事者と社会福祉制度との関わり、専門職としての役割について学ぶ。また、福祉の対象となる人々の尊厳を守る視点や学生自身も生活者であることを意識し、保育者としての福祉観を培う。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷を説明できる。</li> <li>2. 社会福祉の制度や実施体系について説明できる。</li> <li>3. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について説明できる。</li> <li>4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護に関わる仕組みについて説明できる。</li> <li>5. 社会福祉の動向と課題をふまえ、自分の福祉観を述べるができる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション			保育と社会福祉、社会福祉を学ぶ姿勢、私の福祉観		
	2	現代社会と社会福祉の意義①			社会福祉の概念と理念		
	3	現代社会と社会福祉の意義②			社会福祉の歴史的変遷		
	4	社会福祉と児童家庭福祉①			社会福祉の分野としての児童家庭福祉		
	5	社会福祉と児童家庭福祉②			児童の人権・権利擁護と社会福祉		
	6	社会福祉と児童家庭福祉③			家庭支援・子育て支援と社会福祉		
	7	社会福祉制度と実施体系①			社会保障及び関連制度、社会福祉制度と法体系		
	8	社会福祉制度と実施体系②			社会福祉行財政と実施機関		
	9	社会福祉制度と実施体系③			社会福祉施設と専門職 他		
	10	相談援助①			相談援助の概要、変遷		
	11	相談援助②			相談援助の方法と技術		
	12	相談援助③			相談援助の具体的展開		
	13	社会福祉の動向と課題①			少子高齢化社会への対応、地域福祉の推進		
	14	社会福祉の動向と課題②			共生社会実現の取組、諸外国の動向		
	15	まとめ			子どもの福祉、私の福祉観		
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <p>・科目修得試験 60% ・演習、レポート課題 30% ・受講状況 10%</p>						
テキスト 参考文献	<p>・使用テキスト 新基本保育シリーズ4「社会福祉」（中央法規）</p> <p>・参考文献等 授業内で随時提示、紹介する。</p>						
備 考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育等、福祉の現場で働くことを念頭に、積極的に学習に取り組む。</li> <li>2. 毎回の内容及び他の科目、実践との関連性を意識して授業にのぞむ。</li> </ol>						

科目名	こどもの理解と援助 (Child's understanding and consultation support)						
学年	2	時期	前期	分野	保育の対象の理解	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	新名 隆宏 (専任教員)
授業概要	保育実践において、実態に応じたこども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について学んでいく。また、こどもの体験や学びの過程において、こどもを理解する上での基本的な考え方を学び、保護者支援や各種相談支援についても学んでいく。						
到達目標	1. こどもを理解するための具体的な方法を理解し、実践できる。 2. こどもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解し、実践できる。 3. こども支援、保護者支援に関わる各種相談について理解する。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 保育におけるこどもの理解の意義					
	2	こどもに対するかかわりと共感的理解					
	3	こどもの生活や遊び					
	4	保育の人的環境としての保育者とこどもの発達					
	5	こども相互のかかわりと関係づくり					
	6	集団における経験と育ち					
	7	発達における葛藤やつまづき					
	8	保育の環境の理解と構成					
	9	環境の変化や移行					
	10	こども理解のための観察・記録と省察・評価					
	11	こども理解のための職員間の対話					
	12	こども理解のための保護者との情報共有					
	13	発達の課題に応じた援助とかかわり					
	14	特別な配慮を要するこどもの理解と援助					
	15	発達の連続性と就学への支援					
	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験70% ・レポート課題10% ・受講状況(演習含む)10%						
テキスト 参考文献	テキスト：新基本保育シリーズ⑩ 「子どもの理解と援助」 (中央法規出版) 配本テキスト こどもの理解と相談支援 豊岡短期大学 参考文献：講義内で随時提示する。 その他：講師作成資料を配布する。						
備考	・授業は、講義と演習を交えて実施する。積極的に取り組むこと。 ・配布資料があるため、各自しっかりと管理しておくこと。 ・課題やレポートの提出期日を厳守すること。						

科目名	こどもの保健 (Child Health)						
学年	2年	時期	後期	分野	保育の対象の理解	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	講義	担当講師	椎屋 良子(専任教員)
授業概要	一人ひとりの子どもの心身の状態や発達。特性、個性にそった保育によって子どもの健康は保たれる。乳幼児期は、特に病気に対する抵抗力が弱く、心身の機能の未熟さもあり、健康状態、発達状態を把握し、適切な判断に基づく保健的な対応を行うことが求められる。このことから、保育者は、一人ひとりの子どもが快適に、健康で安全に生活できるよう知識・技術の習得を目標とする。						
到達目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解できる。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び多職種間の連携・協働の下での適切な対応について考える。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義・目的					
	2	生理機能の発達と保健(1)呼吸器系、循環器系、消化器系、腎・泌尿器系					
	3	生理機能の発達と保健(2)中枢神経系、内分泌系、					
	4	生理機能の発達と保健(3)血液系、免疫系					
	5	健康状態の観察および心身の不調等の早期発見					
	6	主な疾病の特徴(1)新生児の病気					
	7	主な疾病の特徴(2)－1循環器系、呼吸器、血液、消化器の病気					
	8	主な疾病の特徴(2)－2主な先天性心疾患、川崎病と心臓合併症					
	9	主な疾病の特徴(3)アレルギー、免疫、腎泌尿器、内分泌の病気					
	10	主な疾病の特徴(4)脳の病気					
	11	主な疾病の特徴(5)感染症理解の基本、感染症法と学校感染症、感染症の分類、出席停止期間					
	12	主な疾病の特徴(6)感染症理解の基本、感染症法と学校感染症、感染症の分類、出席停止期間					
	13	子どもの疾病の原因・適切な対応と予防(1)					
	14	子どもの疾病の原因・適切な対応と予防(2)					
	15	子どもの疾病の原因・適切な対応と予防(3)					
16	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験 80% ・受講態度、提出物状況 20%						
テキスト 参考文献	・使用テキスト 子どもの保健 新基本保育シリーズ⑪ 2019年 中央法規 イラストで学ぶ解剖学 松村譲児 2000年 医学書院 ・参考文献 子どもの保健演習ノート 2016年 診断と治療者 最新赤ちゃんの病気百科 2019年 ひよこクラブ 保育士保育指針 平成30年						
備考							



科目名	こどもの食と栄養 (Nutrition for children)						
学年	2	時期	通年	分野	保育の対象の理解	必修選択	必修
単位数	2	時間数	60	授業形態	演習	担当講師	長友 久美子 (非常勤講師)
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 規則正しい生活の基盤ができるようになるために、自らの生活スタイルを認識し、行動変容ができるよう、必要な食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解し、技を身につける。</li> <li>2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。</li> <li>3. 食育の基本と内容を理解し、現場で実践できる力を身につける。</li> <li>4. 家庭や児童福祉施設における子どもの食生活の現状と課題について考察する。</li> <li>5. 特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養について理解する。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の発達について述べることができる。</li> <li>2. 発達段階に応じた栄養のあり方を知る。</li> <li>3. 身体のしくみについて説明できる。</li> <li>4. 栄養素とその機能について説明できる。</li> <li>5. 栄養アセスメントを行うことができる。</li> <li>6. 生活のための技術を実施できる。</li> <li>7. 生涯発達と食生活について列挙できる。</li> <li>8. 食育実践プログラムを応用できる。</li> <li>9. 媒体を使用した食育を実施できる。</li> <li>10. 食事摂取基準と食事バランスガイドが使用できる。</li> <li>11. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養について説明できる。</li> <li>12. 特別な配慮を必要とする子どもの食生活について説明できる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	子どもの健康と食生活の意義					
	2	子どもの健康と食生活の現状と課題					
	3	栄養に関する基礎知識① 栄養の基本					
	4	栄養に関する基礎知識② 栄養素の種類とはたらき					
	5	栄養に関する基礎知識③ 子どもの栄養の特徴					
	6	家庭における食事と栄養					
	7	児童福祉施設における食事と栄養① 食生活の特徴					
	8	児童福祉施設における食事と栄養② 食事の提供					
	9	子どもの発育・発達と食生活① 乳児期					
	10	子どもの発育・発達と食生活② 幼児期					
	11	子どもの発育・発達と食生活③ 学童期・思春期					
	12	食育の基本と内容① 計画					
	13	食育の基本と内容② 環境					
	14	食育の基本と内容③ 食育媒体					
	15	食育の基本と内容④ 評価					
		科目修得試験					
	16	調理実習 計画					
	17	調理実習 準備					
	18	調理実習① 離乳食					
	19	調理実習①の反省・評価					
	20	調理実習② 主食					
21	調理実習②の反省・評価						
22	調理実習③ おやつ						

	23	調理実習③の反省・評価
	24	食育の基本と内容 地域連携 保護者支援
	25	特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養① 疾病及び体調不良
	26	特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養② 食物アレルギー
	27	特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養③ 障がいのある子ども
	28	親子クッキング計画・実践① 主食
	29	親子クッキング計画・実践② おやつ
	30	まとめ
		科目修得試験
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験7割 ・レポート課題提出状況3割	
テキスト 参考文献	テキスト・新基本保育シリーズ 子どもの食と栄養（中央法規） 参考文献・随時紹介する	
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は講義だけでなく調理実習などグループ演習形式で行うこともある。グループメンバーと協力し、積極的に取り組むこと。</li> <li>・配布資料は、教科目専用のファイルを準備し日付順に綴じること。</li> <li>・課題やレポートの提出期日を厳守すること。</li> </ul>	

科目名	こどもの指導法「造形表現」(Child's method of teaching Plastic expression)						
学年	2	時期	前期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	上村 幸子(非常勤講師)
授業概要	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに、材料・用具・手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と制作体験とを関連づけながら学習を深める。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。</li> <li>2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。</li> <li>3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。</li> <li>4. 実践での造形教育活動を行うにあたり、環境構成を踏まえた指導計画案を作成することができる。</li> <li>5. 実践での造形教育活動を行うにあたり、指導計画案で援助についての知識を深めることができる。</li> <li>6. 自ら立案した指導計画に基づき模擬保育を実践することができる。</li> <li>7. 子どもの発達段階に応じた表現活動の違いを説明できる。</li> <li>8. 各年齢・季節に応じた造形表現遊びを考えることができる。</li> <li>9. 上記の遊びを使って、保育案を立てることができる。</li> <li>10. 上記の保育案を使って模擬保育を実践することができる。</li> <li>11. 模擬保育を反省し自分の活動を見直すことができる。</li> <li>12. 模擬保育を通して、お互いの良さ、反省点を指摘し合うことができる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「表現」領域及び小学校との連携(図画工作)の学習指導要領					
	2	造形表現の思想と指導法の推移及びこどもの発達段階における表現の特徴					
	3	こどもの発達段階における表現の指導・援助(指導案)と評価					
	4	教材研究を伴う製作Ⅰ(えがく)絵をかく環境づくりと指導・援助について					
	5	教材研究を伴う製作Ⅱ(つくる)					
	6	教材研究を伴う製作Ⅲ(造形あそび)					
	7	実践的な指導法(模擬保育等)の学習(えがく・つくる・造形遊び)					
	8	えがく、つくる、造形あそびの保育展開(指導法)と情報機器及び教材の活用 まとめ					
	9	指導案作成					
	10	指導案作成・グループ討議					
	11	模擬保育準備・リハーサル					
	12	模擬保育(えがく)					
	13	模擬保育(つくる)					
	14	模擬保育(造形あそび)					
	15	模擬保育まとめ					
	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 制作作品(40%) 模擬保育(指導案作成・実践)(40%) 科目習得試験(20%)						
テキスト 参考文献	「造形表現論」(配本テキスト) 「保育をひらく造形表現」(萌文書林) 「実習の記録と指導案」(ひかりのくに)						
備考							

科目名	こどもの指導法「言語表現」(Child's method of teaching Language representation)						
学年	2	時期	前期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	菊田 恭子(非常勤講師)
授業概要	<p>1. 乳幼児期における各発達段階のこどもに相応しい言語表現活動の展開と指導法を学習し乳幼児期のこどもの言語表現活動を指導することができるような基本的知識と技法を身につける。</p> <p>2. 保育現場で使用される言語に関わる文化財を取り上げ、日々生活の中でこどもの言語習得経験とどのように関係するかを理解する。</p>						
到達目標	<p>1. 乳幼児期の発達に応じた言語表現活動の指導法について述べることができる。</p> <p>2. 言語表現活動をするための基本的な知識を身につけ実践することができる。</p> <p>3. 幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と、幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる児童文化財の作成を試みる。</p> <p>4. 作成した児童文化財を用いての表現活動を通して、言語表現活動の指導法について、問題点を出し合い、解決する力を身につける。</p>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	言語表現とは 児童文化財について① 絵本 紙芝居					
	2	児童文化財について② 素話 かるたあそび					
	3	児童文化財の作成① パネルシアターについて 下書き					
	4	児童文化財の作成② パネルシアター制作 着色					
	5	児童文化財の作成③ パネルシアター制作 着色					
	6	児童文化財の作成④ パネルシアター制作 着色 切り取り					
	7	児童文化財の作成⑤ パネルシアター練習 指導案について					
	8	児童文化財の作成⑥ パネルシアター練習 指導案作成					
	9	こどもの言語表現指導法と指導案の作成 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」の内容 ・言語表現の指導法及び指導案の作成					
	10	児童文化財による乳幼児の言語表現活動 ・言語表現活動の意義と範囲 ・言語表現教材の指導法及び模擬保育の指導法					
	11	言語表現が豊かになる児童文化財の指導 ・絵本の読み聞かせや紙芝居等の活用と留意点 ・わらべ歌遊びや言葉遊び等の活用と留意点					
	12	言語表現を育む児童文化財の作成とその指導① ・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の作成と情報機器の活用法 ・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材活用の指導法					
	13	言語表現を育む児童文化財の作成とその指導② ・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等の教材と情報機器を活用した指導案の作成 ・絵本、紙芝居、パネルシアター、ペープサート等による模擬保育と評価方法・振り返り					
	14	言語表現を育む児童文化財の作成とその指導③ ・わらべうた、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の意義及び教材の活用と指導法 ・わらべうた、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の AV 教材活用と留意点					
15	言語表現を育む児童文化財の作成とその指導④						

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わらべうた、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の意義及び教材の活用と指導法</li> <li>・わらべうた、あそび歌、しりとり、伝言ゲーム等の AV 教材活用と留意点</li> </ul>
	科目修得試験
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <p>科目修得試験、演習課題、受講態度（演習を含む）で総合的に判断する。</p>
テキスト 参考文献	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「保育所保育指針解説」（フレーベル館）</li> <li>・「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）</li> <li>・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</li> </ul> <p>参考文献等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居—共感のよろこび』（童心社）</li> <li>・『アプローチ児童文学』（翰林書房）</li> <li>・『えほんのせかい こどものせかい』（文春文庫）</li> </ul>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ことばで表現すること、人前で話すこと、ことばで評価を受け自らも評価すること、そのようなことばによるコミュニケーションを通して、人との関わりを大切にすること。</li> <li>・苦手な分野は少しでも苦手でないものに、得意な分野はより得意なものになるよう、積極的に取り組むこと。</li> <li>・学んだことは子どもたちの前で実践する機会を持ち、それを重ねながら、自分のスキルアップにつなげていくこと。</li> </ul>

科目名	乳児保育Ⅱ (Day Care for Infant Ⅱ)						
学年	2	時期	前期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	1	時間数	15	授業形態	演習	担当講師	松下律子(非常勤講師)
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児および1歳以上3歳未満児の発育・発達の過程や特性を学び、基本的な保育援助や関わり及び環境などについて具体的に理解する。</li> <li>2. 集団保育と個々の子どもへの支援について理解し、乳児保育における配慮の実際を、具体的に理解する。</li> <li>3. 養護及び教育の一体性とは何か、「養護」と「教育」の関係性について理解し、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児および1歳以上3歳未満児の発育・発達の過程や特性に対応した生活やあそびへの配慮を踏まえた援助ができる。</li> <li>2. 乳児期の養護および教育の基本的事項に配慮した援助ができる。</li> <li>3. 乳児保育における「養護」および「教育」の一体性とその関係性を理解し、乳児保育における計画が作成できる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション、乳児保育の基本(演習) 応答的なかわり					
	2	子どもの生活の流れ(0歳児クラス)(演習) 流れる日課、育児担当制					
	3	子どもの保育環境(演習) 物的環境：家庭的環境					
	4	子どもの援助の実際(0歳児クラス)(演習) 食事場面、おむつ交換					
	5	子どもの生活の流れ(0歳児クラス)(実習) 調乳実習					
	6	子どもの生活の流れ(1歳児クラス) 家庭との連携(演習) 朝の視診					
	7	子どもの保育環境(1歳児クラス)(演習) 玩具の設定					
	8	子どもの援助の実際(1歳児クラス)(演習) 着脱衣					
	9	子どもの生活の流れ(2歳児クラス)(演習) 内面の思いを受け止める保育					
	10	子どもの保育の環境(2歳児クラス)(演習) 探索活動の環境					
	11	子どもの援助の実際(2歳児クラス)(演習) 排せつ自立の適切な援助					
	12	子どもの心身の健康・安全と情緒を図るための配慮(演習) 発達段階における事故					
	13	集団生活における配慮、環境の変化や移行に関する配慮(演習) 保護者との連携					
	14	長期指導計画 短期指導計画及び個別指導計画					
	15	集団指導計画					
	科目履修試験						
評価方法	科目履修試験60%、学習ノート(授業外学習)、20%、提出物20%で総合的に評価し、6割以上で単位を認定する。						
テキスト 参考文献	使用テキスト 新基本保育シリーズ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ (中央法規) 参考文献等 幼児理解に基づいた評価(文部科学省)(平成31年3月)、 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領、社会福祉法人あずみ福祉会 茶々保育園グループ 養成校と保育室をつなぐ理論と実践(萌文書林) 乳児保育(2) 一日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践 (改訂初版) 萌文書林等 その他 講師作成資料						
備考	学習ノートを配布します。毎回、授業のポイントや自己評価及び感想を記入し、自分の考え方、思いをしっかりと記述するようにしましょう。						

科目名	こどもの健康と安全 (Child's health and safety)						
学年	2	時期	後期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	椎屋 良子 (専任教員)
授業概要	<p>子どもの健康と安全の確保は、子どもの生命の保持と健やかな生活の基本であり、一人ひとりの子どもの健康の保持及び増進並びに安全の確保とともに、保育所全体における健康及び安全の確保に努めることが重要となる。このことから、保育者は子どもの感染症への知識、及び衛生管理・事故防止・安全対策・危機管理・災害対策において、確かな知識、技術が求められる。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解できる。</li> <li>2. 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解できる。</li> <li>3. 子どもの体調不良等、感染対策に対する適切な対応について、具体的に理解できる。</li> <li>4. 子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、理解できる。</li> <li>5. 子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取組や保健活動の計画及び評価等について具体的に理解できる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 子どもの健康と安全を学ぶ意義・目的 子どもの健康と保育の環境					
	2	子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康					
	3	衛生管理(1) 望ましい衛生管理・主な環境衛生の基準・室内外の衛生管理					
	4	衛生管理(2) 消毒薬の作り方・簡易の使い捨てエプロン作成・職員の衛生管理					
	5	事故防止および安全対策(1) 保育施設での事故・事故の原因と対応・事故発生時の対応のためのガイドライン					
	6	事故防止および安全対策(2) 保育における危険な箇所を探す・チャイルドマウスと誤飲防止ルーラー作成					
	7	災害への備えと危機管理(1) 災害対策・危機管理・災害時の家族への連絡・持出品の備蓄品					
	8	演習) 避難訓練					
	9	災害への備えと危機管理(2) 自分の住んでいるハザードマップの確認・災害時に求められる判断力と行動力					
	10	体調不良や傷害が発生した場合の対応					
	11	演習) バイタルサイン測定					
	12	感染症の集団発生と予防、対応(1) 感染症の基礎知識					
	13	感染症の集団発生と予防、対応(2) 標準予防策・スタンダードプリコーション					
	14	感染症の集団発生と予防、対応(3) 予防接種・感染症発生時の園の対応					
	15	嘔吐物処理の方法を身につける・正しい手洗い方法を身につける					
	科目修得試験						
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <p>・科目修得試験 70% ・演習、レポート 20% ・出席状況 10%</p>						
テキスト 参考文献	<p>・使用テキスト 新子どもの健康と安全⑩ 2019年 中央法規 子どもの保健演習ノート 2016年 診断と治療社 子どもの健康と安全演習ノート 2020年 診断と治療社 「保育所保育指針解説」フルベール館 平成30年 「幼稚園教育要領解説」フルベール館 平成30年 「幼保連携型認定こども園解説書」フルベール館 平成30年</p>						
備考							

科目名	社会的養護Ⅱ (Social nursing Ⅱ)						
学年	2	時期	前期	分野	保育の内容・方法に関する科目	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	宮下 清子(専任教員)
授業概要	さまざまな社会環境の中で生活している子どもたちに対する施設養護をはじめとする社会的養護について理解する。一人ひとり子どもの状況に合わせた生活支援について理解を深める。また、子どもの生活状況に合わせた関係機関との連携について理解し、保育者としての役割を考察する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設養護の特性と専門職の役割について説明できる。</li> <li>2. 事例を通して、子どもの状況に合わせた支援計画や環境設定を考察する。</li> <li>3. 専門職間や家族・地域との連携について理解し、保育者として求められる役割について考察する。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 子どもの環境：現代の状況					
	2	社会的養護における子どもの理解					
	3	子どもの権利擁護					
	4	社会的養護の内容を考える①					
	5	社会的養護の内容を考える②					
	6	社会的養護の内容を考える③					
	7	施設養護の生活特性を考える①					
	8	施設養護の生活特性を考える②					
	9	施設養護の生活特性を考える③					
	10	家庭養護の生活特性を考える①					
	11	家庭養護の生活特性を考える②					
	12	社会的養護と相談援助					
	13	社会的養護における家庭支援					
	14	社会的養護における専門職					
	15	社会的養護の課題と展望					
	科目修得試験						
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <p>・科目修得試験 60% ・演習状況 30% ・課題提出 10%</p>						
テキスト 参考文献	<p>使用テキスト：新・基本保育シリーズ⑱ 社会的養護Ⅱ 中央法規出版          その他：講師配布資料</p>						
備考	配布資料をしっかりと整理・保管すること。						



科目名	子育て支援 (Child rearing support)						
学年	2	時期	前期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	新名 隆宏 (専任教員)
授業概要	1. 近年、保育ニーズの多様化に伴う保護者や地域の子育て家庭に対する支援の在り方について学習していく。 2. 保育所保育指針に示されている子育て支援について、学習していく。 3. 保育士の実践する保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供等についてその専門性を具体的に学習する。						
到達目標	1. 子育て支援の意義や役割、子育てを取り巻く社会状況等について理解し、どのような子育て支援が必要なのか理解できる。 2. さまざまな場面や対象に応じた支援の内容と方法、技術を理解できる。 3. 子育て支援に関する社会資源について理解できる。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 子どもの保育とともに行う保護者支援					
	2	保護者理解と信頼関係の形成① 演習「ラポール形成」					
	3	保護者理解と信頼関係の形成② 演習「バイスティックの7原則」					
	4	保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解					
	5	こども及び保護者の状況・状態の把握					
	6	支援の計画と環境構成① 演習「地域資源について」					
	7	支援の計画と環境構成② 演習「保護者の支援計画」					
	8	支援の実践① 記録					
	9	支援の実践② 評価 カンファレンス					
	10	職員間の連携・協働					
	11	他専門職との連携					
	12	保育所等における支援 (事例検討) 地域の子育てに対する支援 (事例検討)					
	13	障害のある子どもおよびその家庭に対する支援 (事例検討) 特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援 (事例検討)					
	14	子ども虐待の予防と対応 (事例検討) その他多様な問題を抱える家庭に対する支援					
	15	保育士の専門性と子育て支援の今後					
	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 科目修得試験70% レポート課題提出状況20% 出席状況10%						
テキスト 参考文献	テキスト：新基本保育シリーズ <sup>19</sup> 「子育て支援」 (中央法規出版) 参考文献等：随時提示する その他：講師配布資料						
備考	・授業は、講義と演習を交えて実施する。積極的に取り組むこと。 ・配布資料があるため、各自しっかりと管理しておくこと。 ・課題やレポートの提出期日を厳守すること。						

科目名	保育実習 I b (Practical Nursing I b)						
学年	2	時期	前期	分野	保育実習	必修選択	必修
単位数	2	時間数	90	授業形態	実習	担当講師	新名隆宏(専任教員) 椎屋 良子(専任教員) 宮下清子(専任教員) 横山澄子(専任教員) 黒川 由紀(専任教員)
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。</li> <li>4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義と目的、段階、内容について理解し説明できる</li> <li>2. 実習施設の種類について理解し、特性について述べることができる。</li> <li>3. 実習に対する心構え、態度を身につけ行動する。</li> <li>4. 実習のねらい及び達成課題を明確にし、文章化できる。</li> <li>5. 実習日誌・指導案などの記入方法を理解し、記録できる。</li> <li>6. 実習に必要な書類の作成や手続きを主体的にできる。</li> <li>7. 実習後振り返りをして、自己評価をし、新たな課題を明確にし、文章化できる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	10 日 間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の役割と機能 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 施設におけるこどもの生活と保育士の援助や関わり</li> <li>(2) 施設の役割と機能</li> </ul> </li> <li>2. 子ども理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの観察とその記録 (2) 個々の状況に応じた援助やかかわり</li> </ul> </li> <li>3. 施設における子どもの生活と環境 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 計画に基づく活動や援助 (2) 子どもの心身の状態に応じた生活と対応</li> <li>(3) 子どもの活動と環境 (4) 健康管理、安全対策の理解</li> </ul> </li> <li>4. 計画と記録 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価</li> </ul> </li> <li>5. 専門職としての保育士の役割と倫理 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携</li> <li>(3) 保育士の役割と職業倫理</li> </ul> </li> </ol>					
評価方法	事前学習、日々の実習日誌記録状況、実習指導者よりの評価と所見、実習巡回での状況、及び事後学習の状況を踏まえ、総合的に評価する。						
テキスト 参考文献	「新基本保育シリーズ20 保育実習」(中央法規)「保育福祉小六法2023」(みらい) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館)「宮崎県の福祉と保健」(宮崎県社会福祉協議会) 「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」(全国社会福祉事業団) 「実習の記録と指導案」(ひかりのくに)						
備考							

科目名	保育・教職実践演習 (Nurture and school teaching practice)						
学年	2	時期	前期	分野	総合演習	必修選択	必修
単位数	2	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	岩切 美知子 (専任教員) 山口 清美 (非常勤講師)
授業概要	学校での学びや実習での経験で形成された資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努める。保育士・幼稚園教諭・保育教諭生活を円滑にスタートできるように、保育の現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して、実践的指導力を身に付ける。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでに形成された資質能力、実践的指導力を確認する。履修カルテを通して授業科目との関連を考え、不足している知識、技能等を整理することができる。</li> <li>2. 自己課題の自覚と克服に向け何が必要か考え改善に努めることができる。</li> <li>3. 使命感、責任感、教育的愛情等に関する事項について理解できる。</li> <li>4. 社会性や対人関係能力に関する事項について理解できる。</li> <li>5. 幼児理解、学級経営等に関する事項について理解できる。</li> <li>6. 保育内容等の指導力に関する事項について理解できる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	教師・保育士という職業					
	2	教師に求められる資質と能力					
	3	「教師」「保育者」になるー研究と修養の必要性ー					
	4	学級経営					
	5	子ども理解					
	6	特別支援教育					
	7	小学校との接続					
	8	安全で安心な保育実践をするために					
	9	学級経営における臨床場面での教師の対応 I					
	10	保育現場での対応 (事例研究) 課題のある子どもの (幼児) の事例研究					
	11	集団討論 I 「教育課題の解決への教師としてのアプローチ」					
	12	保育計画と模擬保育					
	13	統合保育・異年齢保育に関わる課題と展望					
	14	「幼保小連携」子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方					
	15	学習のまとめ ・ 自己の振り返り ・ 今後に向けての課題					
	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 科目修得試験 (50%) レポート (20%) 配布プリント等の記入 (30%)						
テキスト 参考文献	保育・教職実践演習 (配本テキスト) 保育所保育指針解説 フレーベル館 幼稚園教育要領解説 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館 履修カルテ						
備考							

科目名	特別支援教育 (Special needs education)						
学年	2	時期	後期	分野	保育の対象の理解に関する科目	必修選択	必修
単位数	1	時間数	15	授業形態	講義	担当講師	宮下 清子 (専任教員)
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別な教育的ニーズを有する子どもの支援のあり方を学ぶ。</li> <li>2. 事例を通し、障害のある子どもに関する関係機関や家族・地域との連携について理解し、支援のあり方の理解を深める。</li> <li>3. さまざまな障害のある子どもの教育的ニーズに合わせた支援のあり方について、保育者としての役割を理解する。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別な教育的ニーズを有する子どもの特性について説明できる。</li> <li>2. 特別支援教育の事例を通して、個別支援のあり方を考察できる。</li> <li>3. 様々な障害のある子どもの生活状況を理解し、子どもや保護者・家庭の状況に合わせた関係機関との連携について考察できる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 特別な教育的ニーズを持つ子どもへの教育課程					
	2	障害の特徴やニーズの理解と生活支援①					
	3	障害の特徴やニーズの理解と生活支援②					
	4	障害の特徴やニーズの理解と生活支援③					
	5	合理的配慮と個別の教育支援計画					
	6	特別支援教育コーディネーターの役割					
	7	保護者・家庭支援の連携					
	8	特別な教育的ニーズを考える 科目修得試験					
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目修得試験 60% ・小テスト 20% ・演習状況 10%</li> <li>・課題提出 10%</li> </ul>						
テキスト 参考文献	<p>使用テキスト：特別支援教育（配本テキスト）  参考文献：新・基本保育シリーズ⑪ 障害児保育（中央法規出版）  その他：講師配布資料</p>						
備考	配布資料をしっかりと整理・保管すること。						

科目名	健康論 (Healthy theory)						
学年	2	時期	前期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	1	時間数	15	授業形態	講義	担当講師	椎屋 良子 (専任教員)
授業概要	乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体の基礎をつくる重要な時期である。「健康」の指導に関する乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項について理論的学習を身に付ける。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の様々な就業形態や家族形態に対応した保育所の役割・機能が求められる。その中で健康について理解できる。</li> <li>2. 乳幼児の心と身体の両面から「健康」を考えることができる。</li> <li>3. 乳幼児の「健康」を理解することは、生涯にわたって生活するうえで必要なことであることを理解できる。</li> <li>4. 乳幼児の「健康」を学ぶことで、保育者としての自らの健康を考えることができる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 「健康論」を学ぶ意義 第1章 乳幼児と健康 (1) 健康の概念 (2) 乳幼児期の心と身体の発達と健康課題					
	2	第2章 乳幼児期の発育・発達 (1) 形態的発育・発達の特徴 (2) 機能的発育の特徴					
	3	第2章 乳幼児期の発育・発達 (3) 運動機能の発達と特徴 (4) 心の発達					
	4	第3章 乳幼児期における運動の意義					
	5	第4章 乳幼児期の基本的な生活習慣と健康 (1) 生活習慣の確立					
	6	第4章 乳幼児期の基本的な生活習慣と健康 (2) 乳幼児期の生活習慣					
	7	第5章 乳幼児期の食育					
	8	第6章 乳幼児期における健康・安全の確保					
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目修得試験 80%</li> <li>・授業の姿勢、提出物状況 20%</li> </ul>						
テキスト 参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用テキスト 配本テキスト 健康論</li> <li>・参考文献 「幼稚園教育要領」 フルベール館 「保育所保育指針解説」フルベール館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フルベール館</li> </ul>						
備考							

科目名	環境論 (The environment theory)						
学年	2	時期	前期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	1	時間数	15	授業形態	講義	担当講師	横山 澄子 (専任教員)
授業概要	1. 領域「環境」の内容を踏まえ、乳幼児期の子どもの発達と環境の関係性を考える。 2. 環境を通して行う保育の意味を知る。 3. 保育における環境を学ぶ。						
到達目標	1. 子どもを取り巻く環境と子どもの発達の関係性を考える。 2. 子どもの身近な環境との関わりを学ぶ。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション、領域「環境」の目標の理解					
	2	乳児期の子どもの発達の特徴と発達を支える環境、保育者の援助					
	3	1～3歳未満児の子どもの発達の特徴と発達を支える環境、保育者の援助					
	4	3歳以上児の子どもの発達の特徴と発達を支える環境、保育者の援助					
	5	保育における環境① 人的環境と物的環境					
	6	育てよう～芝人形作り					
	7	幼児の身近な環境との関わり① 屋内環境					
	8	幼児の身近な環境との関わり② 屋外環境					
	科目修得試験						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・科目修得試験60%      ・提出物、レポート取り組みの状況40%						
テキスト 参考文献	⑤ 環境論 (配本テキスト) ⑥ 保育所保育指針解説 (フレーベル館) ⑦ 幼稚園教育要領解説 (フレーベル館) ⑧ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (フレーベル館)						
備考	随時プリントを配付する						

科目名	身体表現 (Body expression)						
学年	2	時期	後期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	野邊 壮平 (非常勤講師)
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の内容を理解し、発達段階に応じた表現遊びや運動遊びのしどろとその展開の方法など指導技術を習得する。</li> <li>2. 身体表現遊びや運動遊びに係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの発達と身体表現遊び・運動遊びの関わりを理解しその意義を説明することができる。</li> <li>2. それぞれの発達段階に応じた表現遊び・運動遊びを学び、その指導や展開の仕方などができる。</li> <li>3. 各種の運動用具の特性を知りその使い方や遊びを工夫できる。</li> <li>4. 表現遊びや運動遊びを促す環境構成や教材の準備ができる。</li> <li>5. 運動遊びの際の安全配慮や工夫をすることができる。</li> <li>6. 表現遊びや運動遊びの指導計画を立案し模擬保育の実践ができる。</li> <li>7. いろいろな運動の実践を通して保育者としての体力や運動技能を身につける。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション 子どもと表現 子どもの遊びの指導・遊び環境について					
	2	鬼遊びについて 鬼遊び保育者指導案作成					
	3	模擬保育 固定用具を使った遊び① 鉄棒					
	4	模擬保育 固定用具を使った遊び② ブランコ 滑り台					
	5	模擬保育 表現遊び					
	6	模擬保育 平均台					
	7	模擬保育 跳び箱					
	8	模擬保育 マット運動					
	9	模擬保育 短縄					
	10	模擬保育 長縄					
	11	模擬保育 短縄と長縄					
	12	模擬保育 身近な素材を使った遊び① 新聞紙とチラシ					
	13	模擬保育 身近な素材を使った遊び② 段ボール					
	14	模擬保育 伝承遊び かるた遊び・カード遊び等					
	15	模擬保育 伝承遊び おはじき・コマ・お手玉等					
	科目修得試験						
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目修得試験 7割</li> <li>・指導案・授業記録レポート提出状況 3割</li> </ul>						
テキスト 参考文献	<p>テキスト・保育と幼児期の運動遊び (萌文書林)  参考文献・0・1・2歳児の運動遊び (萌文書林)  ・体育遊び120 (チャイルド社)</p>						
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の実践にふさわしい服装で授業に臨み、準備、後片付けなど協力して行うこと。</li> <li>・授業記録を毎回とり、反省や感想を付記して提出すること。</li> <li>・指導案は提出期日を守り、責任を持って模擬保育を行うこと。</li> </ul>						

科目名	保育総合表現 (Nurture overall expression)						
学年	2	時期	後期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	2	時間数	60	授業形態	演習	担当講師	岩切 美知子 (専任教員) 横山 澄子 (専任教員)
授業概要	1. 既習の「表現」の科目を通して総合的に表現できる力を身に付ける。 2. 発表することにより、保育現場で直接活かせる実践力を養う。						
到達目標	1. 2グループ (演技担当、演奏担当) に分かれて、2つの劇の演目に取り組み、発表する。 2. 発表までの学習内容を、友人と協力しながら計画に沿って進めていく。 3. 演奏力、演技力を身に付ける。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	オリエンテーション、1つ目の演目の配役決定、音楽の楽器分担決定					
	2	1つ目の演目の歌の練習 (A B合同)					
	3	A : 演技グループ 歌の練習①			B : 合奏グループ パート練習①		
	4	歌の練習②			パート練習②		
	5	歌、振付の練習①			曲ごとに練習①		
	6	歌、振付の練習②			曲ごとに練習②		
	7	歌、振付の練習③			曲ごとに練習③		
	8	歌、振付の練習④			曲ごとに練習④		
	9	全体練習①			通して演奏①		
	10	全体練習②			通して演奏②		
	11	合同練習①					
	12	合同練習② 小道具を使用する					
	13	合同練習③ 衣装を身に付ける					
	14	リハーサル					
	15	発表					
	16	オリエンテーション、2つ目の演目の配役決定、音楽の楽器分担決定					
	17	2つ目の演目の歌の練習 (A B合同)					
	18	B : 演技グループ 歌の練習①			A : 合奏グループ パート練習①		
	19	歌の練習②			パート練習②		
	20	歌、振付の練習①			曲ごとに練習①		
	21	歌、振付の練習②			曲ごとに練習②		
	22	歌、振付の練習③			曲ごとに練習③		
	23	歌、振付の練習④			曲ごとに練習④		
	24	全体練習①			通して演奏①		
	25	全体練習②			通して演奏②		
	26	合同練習①					
	27	合同練習② 小道具を使用する					
	28	合同練習③ 衣装を身に付けて演じる					
	29	リハーサル					
30	発表						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ・演技の評価50%      ・演奏の評価50%						
テキスト 参考文献	講師作成資料						



科目名	幼児安全法 (Infant safe way)						
学年	2	時期	後期	分野	保育の内容・方法	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	日本赤十字社講師 (非常勤講師)
授業概要	<p>保育に携わるものにとって、子どもの事故や急病の際に的確な応急手当ができることはもとより、自らの事故を防止し、安全で健康な生活を営むことが求められている。</p> <p>この講習においては、赤十字の理念（人道＝人間の苦痛を予防・軽減し、生命と健康を守り、人間の尊厳を確保する）と使命を理解し、幼児安全法の正しい知識と技術を習得して、保育現場において実践できる者の育成を図る。</p>						
到達目標	保育に携わる者として身につけておくべき救命・応急の手当ての知識と技術が理解できる。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	集中講義三日間	<p>第1章 幼児安全法について（学科）</p> <p>第2章 こどもについて（学科）</p> <p>第3章 こどもと起こりやすい事故の予防と手当について</p> <p>○学科・こどもに起こりやすい事故の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢別にみたこどもの事故とその予防</li> <li>・日常起こりやすい事故とその手当</li> <li>・誤飲・窒息・頭部のけが・熱傷・きず</li> </ul> <p>○実技・起こりやすい事故に対する手当（一次救命処置）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児の心肺蘇生法 AED を用いた除細動</li> <li>・気道異物除去・包帯法・固定法・止血法・乳児の心肺蘇生法</li> </ul> <p>第4章 こどもの病気と看病のしかた（学科）</p> <p>第5章 子育てにおける社会資源の活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 赤十字について</li> <li>○ 実技の復習</li> </ul> <p>実技検定 ○学科検定</p>					
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、単位を認める。</p> <p>遅刻・欠席を厳に慎むとともに、学科・実技試験ともに80点以上（100点満点）の成績を修めるように受講すること。</p>						
テキスト 参考文献	<p>使用テキスト 日本赤十字社編集「救急法講習教本」（日赤サービス）</p> <p>日本赤十字社編集「幼児安全法講習教本」（日赤サービス）</p> <p>その他 講師作成資料配布</p>						
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間「講習教本」及び資料等は持参すること。</li> <li>・実技では、体操服を着用すること。</li> <li>・配布された資料は確実に保管し、今後の生活に活用すること。</li> </ul>						

科目名	保育実習指導Ⅱ・Ⅲ (Guidance of Practical Nursing Ⅱ・Ⅲ)						
学年	2	時期	前期	分野	保育実習	必修選択	必修
単位数	1	時間数	30	授業形態	演習	担当講師	新名 隆宏 (専任教員)
授業概要	<p>保育実習の意義・目的を理解し、保育現場での保育実践を身に付けられる事をねらいとする。今までの実習や既習の教科で学んだことを振り返り、実習で生かせるように準備をする。</p> <p>また、保育の援助技術とは何かについて理解し、実習を通して、保育の援助技術を自分の物として身に付け専門性を高められるようにする。そして、それらのねらいの全てが子どもの「最善の利益を保障する」ためのものであることを確認する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義と目的、段階、内容について理解し説明できる</li> <li>2. 実習施設の種類について理解し、特性について述べることができる。</li> <li>3. 実習に対する心構え、態度を身につけ行動する。</li> <li>4. 実習のねらい及び達成課題を明確にし、文章化できる。</li> <li>5. 実習日誌・指導案などの記入方法を理解し、記録できる。</li> <li>6. 実習に必要な書類の作成や手続きを主体的にできる。</li> <li>7. 実習後振り返りをして、自己評価をし、新たな課題を明確にし、文章化できる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1	2年次保育実習について 保育実習Ⅱ・Ⅲ選択について					
	2	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解					
	3	子どもの保育と保護者支援					
	4	子ども(利用者)の状況に応じた適切な関わり					
	5	保育の知識・技術を活かした保育実践					
	6	施設実習直前指導 実習課題の確認					
	7	施設実習事後指導 日誌の記入について					
	8	保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践					
	9	保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善					
	10	保育士の専門性と職業倫理					
	11	保育実習Ⅱ・Ⅲ実習課題の立て方 実習にのぞんで作成					
	12	「実習にのぞんで」作成					
	13	研究保育について					
	14	事前オリエンテーションについて 実習生としてまもるべきこと					
15	実習事後指導 自己課題の明確化 「実習を終えて」 お礼状 実習報告会について						
評価方法	<p>以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。</p> <p>確認小テスト(10%) 実習にのぞんで・実習を終えて(30%) 保育実習指導案(30%)  実習報告内容のまとめ・実習報告会(30%)</p>						
テキスト 参考文献	<p>「新基本保育シリーズ20 保育実習」(中央法規) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館)  「保育福祉小六法」(みらい) 「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」(全国社会福祉協議会)  「宮崎県の福祉と保健」(宮崎県社会福祉協議会) 「実習の記録と指導案」(ひかりのくに)  「0歳～6歳子どもの発達と保育の本」(学研)</p>						
備考							

科目名	保育実習Ⅱ (Practical Nursing Ⅱ)						
学年	2	時期	後期	分野	保育実習	必修選択	選択必修
単位数	2	時間数	90	授業形態	実習	担当講師	実習担当教務 (専任教員)
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。</li> <li>2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。</li> <li>4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。</li> <li>6. 保育士としての自己の課題を明確化する。</li> </ol>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能について理解し説明できる</li> <li>2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることができる。</li> <li>3. 実践を通して保育の理解を深めることができる。</li> <li>4. 保育所における保護者支援について理解することができる。</li> <li>5. 実習のねらい及び達成課題を明確にし、文章化できる。</li> <li>6. 保育課程に基づいて指導計画を作成し、実践することができる。</li> <li>7. 実習日誌に観察や実践したことを明確に記録できる。</li> <li>8. 実習に必要な書類の作成や手続きを主体的にできる。</li> <li>9. 実習後振り返りをして、自己評価をし、保育士としての自己の課題を明確に文章化できる。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	10日 間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 養護と教育が一体となって行われる保育</li> <li>(2) 保育所の社会的役割と責任</li> </ul> </li> <li>2. 観察に基づく保育理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの心身の状態や活動の観察</li> <li>(2) 保育士等の動きや実践の観察</li> <li>(3) 保育所の生活の流れや展開の把握</li> </ul> </li> <li>3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解</li> <li>(2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援</li> <li>(3) 地域社会との連携</li> </ul> </li> <li>4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と実際の保育の過程の理解</li> <li>(2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価</li> </ul> </li> <li>5. 保育士の業務と職業倫理 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 多様な保育の展開と保育士の業務</li> <li>(2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理</li> </ul> </li> <li>6. 自己の課題の明確</li> </ol>					
評価方法	事前学習、日々の実習日誌記録状況、実習指導者よりの評価と所見、実習巡回での状況、及び事後学習の状況を踏まえ、総合的に評価し、6割以上で単位を認める。						
テキスト 参考文献	「新基本保育シリーズ20 保育実習」(中央法規) 「保育福祉小六法2023」(みらい) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「0歳～6歳 子どもの発達と保育の本」(学研) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館) 「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」(全国社会福祉協議会)						

	「宮崎県の福祉と保健」(宮崎県社会福祉協議会) 「実習の記録と指導案」(ひかりのくに)
備 考	

科目名	保育実習Ⅲ (Practical Nursing Ⅲ)						
学年	2	時期	後期	分野	保育実習	必修選択	選択必修
単位数	2	時間数	90	授業形態	実習	担当講師	実習担当教務 (専任教員)
授業概要	1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について具体的な実践を通して、理解を深める。 2. 子ども・利用者の観察や関わりの方眼を明確にすることを通して養護の理解を深める。 3. 保育士等の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 保育士としての自己の課題を明確化する。						
到達目標	1. 児童福祉施設等の役割や機能について理解し説明できる。 2. 実習における支援の実態について理解することができる。 3. 実習に対する心構え、態度を身につけ主体的に行動することができる。 4. 児童福祉施設等における保育士の多様な業務を理解し、それに準じて行動することができる。 5. 実習のねらい及び達成課題を明確にし、文章化できる。 6. 実習日誌・指導案などの記入方法を理解し、記録できる。 7. 実習に必要な書類の作成や手続きを主体的にできる。 8. 実習後振り返りをして、自己評価をし、課題を明確に文章化できる。						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	10 日 間	1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能  2. 施設における支援の実態 (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 (3) 個別支援計画の作成と実践の関連性 (4) 子どもの家族への支援と対応 (5) 多様な専門職との連携 (6) 地域社会との連携  3. 保育士の多様な業務と職業倫理  4. 保育士としての自己課題の明確化					
評価方法	事前学習、日々の実習日誌記録状況、実習指導者よりの評価と所見、実習巡回での状況、及び事後学習の状況を踏まえ、総合的に評価し、6割以上で単位を認める。						
テキスト 参考文献	「新基本保育シリーズ20 保育実習」(中央法規)      「保育福祉小六法2023」(みらい) 「保育所保育指針解説」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館) 「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」(全国社会福祉協議会) 「宮崎県の福祉と保健」(宮崎県社会福祉協議会)      「実習の記録と指導案」(ひかりのくに)						
備考							

科目名	教育実習 (Practical Teaching)						
学年	2	時期	前期	分野	独自科目	必修選択	必修
単位数	4	時間数	140	授業形態	実習	担当講師	岩切 美知子(専任教員) 椎屋 良子(専任教員) 宮下 清子(専任教員) 横山 澄子(専任教員) 黒川 由紀(専任教員) 菊田 恭子(非常勤講師)
授業概要	学校での学びをもとに、幼稚園教育の実践的な理解を深める。幼稚園生活に参加し、幼児理解と幼稚園の機能や教師の職務について学ぶ。観察や子どもへの関わりを通して、幼児理解を深める。担当指導教員に見守られながら、保育の一部を担当する部分実習を通して、子どもの個人差や教師に求められる資質に気付く。実習後、総括と自己評価を行い、自己課題や目標を明確にしていく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実習の意義と目的、内容について理解し説明できる。</li> <li>2. 実習に対する心構え、態度等を身に付けて行動する。</li> <li>3. 実習記録・指導案・週案の記入方法を理解し、記入、作成できる。</li> <li>4. 実習必要な書類の作成や手続きを主体的にできる。</li> <li>5. 実習後の振り返りを行い、自己評価し新たな課題を明確にして、改善していく。</li> </ol>						
授業計画	回数	授 業 内 容					
	1回目	幼稚園教育の目的、目標を理解する。					
		実習園の概要を知る。					
		一日の生活の流れを把握する。					
		年齢により遊び、生活、課題への取り組みの違いを知る。					
		実習記録のとり方、反省、評価について学ぶ。					
		幼児の行動観察、記録とその活用について学ぶ。					
	2回目	安全に対する配慮、清掃、環境整備について学ぶ。					
		年間計画の中の現在の保育を理解する。					
		実習1からの子どもの成長発達を理解する。					
学級経営について学ぶ。							
特別な配慮を必要とする子どもへの関わり方を知る。							
保育計画を立案し、実践する。							
評価方法	保育実践の反省、評価を受け、その問題点を整理する。						
	子育て支援についての特別保育(預かり、延長、未就園児保育等)の現状を知る。						
	幼稚園教諭の役割、職務内容を理解する。						
評価方法	以下の内容で総合的に評価し、6割以上で単位を認める。 ①実習園の評価(60%) ②実習簿の内容(30%) ③実習態度(10%)						
テキスト 参考文献	幼稚園教育実習事前・事後指導(配本的テキスト) 保育・教職実践演習(配本テキスト) 幼稚園教育要領解説 フレーベル館 幼保連携型認定こども園解説 フレーベル館 教育実習 実習要項 (宮崎医療管理専門学校 こども科)						
備考							

令和 5 年度  
教 育 要 項

発行日 令和 5 年 4 月 1 日

学校法人 東洋学園  
宮崎医療管理専門学校  
教務部 こども科

〒889-1701 宮崎県宮崎市田野町甲1556-1

TEL 0985-86-2271

FAX 0985-86-2273

URL <http://www.toyome.jp>